学校法人　高松学園

令和５年度事業報告書

Ⅰ　法人の概要

１．基本情報

(1)学校法人高松学園

(2)主たる事務所の住所：長野県飯田市松尾代田６１０

電話番号　0265-22-4460

ＦＡＸ　0265-22-4474

２．建学の精神

高松学園初代理事長である髙松了秀は、真宗の教育を実現すべく、「新しい時代にふさわしい教養豊かな女性を、伝統の念仏の心をもとに育てたい」という願いのもと、学校法人高松学園を創設した。

時代が移り変わり、価値観が大きく変化し多様性が求められる中、本学園のあり方も少しずつ変化してきている。しかし、根底に流れている開学時の精神は変わることなく、人間（ひと）を育てる学園として歩んでいかねばならない。よって本学園は、この願いを「うつくしく生きる」ということばで表現し、建学の精神としている。

私たちは、一人ひとりが尊く大切な存在である。自分が尊く大切な存在であるのと同じように、他の人も尊く大切な存在である。そのことに気づくことができれば、自分にも人にも優しくなれるはずである。しかし、現実は、人と自分を比較して一喜一憂し、自分が望むような生活ができない、人が自分の望むように行動してくれないと、思い通りにならない原因を自分以外のものに求め、自分自身を省みることがない。

それ故に、うつくしい世界・生き方というものがあることに気づかなければならない。まずは、うつくしい生き方をしていない自分を自覚することが出発点となるのである。

３．学校法人の沿革

大正　３年　４月	飯田市伝馬町善勝寺境内にて慈光幼稚園開園
昭和３３年１０月	学校法人高松学園認可
昭和３４年　４月	飯田女子高等学校開校
昭和４１年　８月	慈光幼稚園を学校法人高松学園に編入
昭和４２年　４月	飯田女子短期大学開学（入学定員　家政科１００名、保育科５０名）
昭和４３年　４月	飯田女子短期大学家政科を家政専攻（入学定員５０名）と食物栄養専攻（入学定員５０名）に分離
昭和４４年　４月	飯田女子短期大学家政科家政専攻の入学定員を１００名に変更
昭和４７年　４月	飯田女子短期大学家政科を家政学科に保育科を幼児教育学科に名称変更
昭和５１年　４月	飯田女子短期大学幼児教育学科の入学定員を１００名に変更
昭和５４年１０月	学校法人高松学園創立記念式典を挙行
昭和５９年　２月	慈光幼稚園創立７０周年記念式典を挙行
昭和５９年　４月	飯田女子短期大学幼児教育学科の幼児教育コースと社会福祉コースを設定
昭和６０年　４月	学校法人信州学園より伊那女子高等学校の経営移管を受け、伊那西高等学校と校名変更し開校
昭和６１年　５月	飯田女子短期大学創立２０周年記念式典を挙行
昭和６３年１０月	飯田女子高等学校創立３０周年記念式典を挙行
平成　５年１０月	慈光幼稚園創立８０周年記念式典を挙行
平成　８年　４月	飯田女子短期大学看護学科開設（入学定員６０名、修業年限３年）
平成　９年　４月	飯田女子短期大学家政学科家政専攻に生活デザインコースと健康生活コースを設定
平成１１年　４月	飯田女子短期大学に専攻科地域看護学専攻（入学定員１５名、保健師養成）・専攻科

	助産学専攻（入学定員５名、助産師養成）を開設。いずれも修業年限１年
平成１２年　４月	飯田女子短期大学家政学科家政専攻を家政専攻（入学定員６０名）と生活福祉専攻（入学定員４０名、介護福祉士養成）に分離 また家政専攻健康生活コースを保健養護コース（養護教諭養成）に、幼児教育学科社会福祉コースを福祉心理コースに名称変更
平成１３年　４月	飯田女子短期大学に保育士資格を有する者を対象とする介護福祉士養成課程として専攻科福祉専攻（入学定員２０名、修業年限１年）を設置
平成１５年　３月	飯田女子短期大学専攻科地域看護学専攻及び助産学専攻が独立行政法人大学評価・学位授与機構の専攻科として認定を受けた
平成１５年　４月	地域の多様な学習ニーズに対応するため、飯田女子短期大学に生涯学習センターを設置
平成１５年１０月	慈光幼稚園創立９０周年記念式典を挙行
平成１６年　３月	飯田女子短期大学家政学科食物栄養専攻が栄養教諭養成課程として認定を受けた
平成１７年　４月	飯田女子短期大学家政学科家政専攻生活デザインコースを生活造形コースに名称変更
平成１８年　３月	伊那西高等学校は校舎の老朽化および耐震への対応を踏まえて校舎改築事業を開始（１、２、３号館を取壊し回廊式新校舎を建築する２年事業計画）
平成１９年　３月	飯田女子短期大学は、平成１８年度財団法人短期大学基準協会による第三者評価を受け、長野県の私立短期大学として初めて「適格」認定を受けた
平成２０年　２月	飯田女子短期大学に専攻科養護教育専攻（２年課程）が、養護教諭１種免許状取得専攻科として文部科学省、独立行政法人大学評価・学位授与機構より設立の認可を受けた
平成２０年　３月	伊那西高等学校校舎改築事業が完了し回廊式新校舎が竣工
平成２０年　４月	慈光幼稚園が認定こども園へ転換し、児童福祉施設「慈光めぐみ保育園」を併設して認定こども園慈光幼稚園となった 飯田女子短期大学に専攻科養護教育専攻（２年課程、養護教諭１種免許状取得、独立行政法人大学評価・学位授与機構認定専攻科）を開設
平成２０年１０月	飯田女子高等学校創立５０周年記念式典を挙行
平成２１年　３月	飯田女子短期大学に幼稚園教諭１種免許状の取得できる専攻科幼児教育専攻を開設（２年課程、独立行政法人大学評価・学位授与機構認定専攻科） 伊那西高等学校「新講堂」が竣工
平成２１年　４月	飯田女子短期大学家政学科の入学定員を６０名から４０名に、幼児教育学科の入学定員を１００名から８０名へ変更 認定こども園慈光幼稚園は園舎建設後３０年が経過し、耐力度検査の結果、園舎建替工事を開始。現地での建替えのため、工事期間中の２１年度は、飯田女子短期大学敷地内の地域響流館を借りて１年間幼児教育・保育を行った
平成２２年　３月	認定こども園慈光幼稚園の新園舎が竣工
平成２２年　７月	飯田女子短期大学のキャンパス内地域響流館に、飯田市子育て支援拠点事業の『わいわいひろば』を開設。
平成２５年　４月	飯田女子短期大学幼児教育学科の学科内コース制（幼児養育コース・福祉心理コース）を廃止
平成２５年　８月	飯田女子高等学校は耐震審査の結果を受け、現地での校舎建替えを開始（工事期間中は旧長野県飯田工業高等学校校舎を仮校舎として運営）
平成２５年１１月	慈光幼稚園創立１００周年記念式典を挙行
平成２６年　３月	飯田女子短期大学は第２クールの一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価を受け、「適格」の認定を受けた
平成２６年１１月	伊那西高等学校３０周年記念式典を挙行
平成２７年　１月	飯田女子高等学校新校舎が竣工

平成２７年　３月　　飯田女子短期大学の本館棟耐震化事業が２年計画で完了
平成２７年　４月　　新認定こども園法施行に伴い、認定こども園慈光幼稚園が幼保連携型認定こども園慈光幼稚園に移行
平成２９年　４月　　飯田女子高等学校に通信制普通科開設（収容定員２４０名）狭域性単位制
平成２９年　４月　　飯田女子短期大学介護福祉士実務者学校介護福祉士実務者研修（通信課程）開設
平性３１年　４月　　飯田女子短期大学専攻科幼児教育専攻を廃止
令和　２年　４月　　飯田女子短期大学幼児教育学科の入学定員を８０名から６０名に変更
令和　４年　４月　　飯田女子短期大学家政学科生活福祉専攻の名称を介護福祉専攻に変更
令和　５年　４月　　飯田女子短期大学を飯田短期大学に家政学科を生活科学学科に名称変更

４．設置する学校・学部・学科等
(1)飯田短期大学　生活科学学科　幼児教育学科　看護学科　専攻科
(2)飯田女子高等学校　全日制普通科　通信制普通科
(3)伊那西高等学校　　全日制普通科
(4)幼保連携型認定こども園慈光幼稚園

５．学校・学部・学科等の学生数の状況

（令和６年５月１日現在）

学校名			入学定員	入学者数	収容定員※	現員数
飯田短期大学	生活科学学科		130	79	260	171
	幼児教育学科		60	40	120	81
	看護学科		60	52	180	141
	本科計		250	171	560	393
	専攻科		30	27	40	31
	総計		280	209	600	424
飯田女子高等学校		全日制	215	152	645	536
		通信制			240	84
伊那西高等学校		全日制	175	146	525	355

※高校（全日制）は、１年～３年までの入学定員の総数

幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園	利用人数（定員）						計
	０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	
１号定員（60）				12(20)	13(20)	15(20)	45
２号定員（80）				26(25)	27(25)	26(30)	75
３号定員（40）	1(4)	21(16)	13(20)				38
総定員（180）	1(4)	21(16)	13(20)	38(45)	40(45)	41(50)	154

６．定員充足率　　（毎年度５月１日現在）

学校名		Ｒ２年度	Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度
飯田短期大学		79.7%	79.5%	74.2%	71.3%	70.7%
飯田女子高等学校	全日制	81.6%	81.8%	81.2%	85.9%	83.1%
	通信制	24.2%	25.0%	31.3%	36.7%	35.0%
伊那西高等学校	全日制	76.8%	79.6%	77.1%	69.7%	67.6%
幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園		111.7%	106.1%	96.1%	87.8%	85.6%

７．役員の概要

役職名	定員数	現員数
理　事	６～１０	８
監　事	２	２
評議員	１８～２５	１８

(1)理事・監事一覧

役職名	氏　　名	就任年月日	役　　職
理事長	髙松彰充	H25.4.1（H11.4.1）	理事長、学長、教授
常任理事	田中宏幸	R6.4.1	飯田女子高等学校長
常任理事	原　博文	R6.4.1	伊那西高等学校長
常任理事	武分祥子	R2.4.1	飯田短期大学副学長・教授
常任理事	髙松里子	R5.4.1	認定こども園慈光幼稚園園長
常任理事	木下幸彦	H28.6.1	法人本部事務局長
理事／非常勤	外松　豊	H12.6.1	会社役員
理事／非常勤	外松秀康	H30.6.1	会社役員
監事／非常勤	原　茂	H30.6.1	会社役員
監事／非常勤	尾太慎二	R1.6.1	会社役員

(2)評議員一覧

役職名	氏　　名	役職名	氏　　名
評議員（学内）	髙松彰充	評議員（学外）	外松秀康
評議員（学内）	有馬　乃	評議員（学外）	伊坪　眞
評議員（学内）	出野憲司	評議員（学外）	吉澤文男
評議員（学内）	武分祥子	評議員（学外）	小島嘉治
評議員（学内）	髙松里子	評議員（学外）	長谷川敬子
評議員（学内）	木下幸彦	評議員（学外）	加藤和子
評議員（学内）	平岩麻美	評議員（学外）	中山雄介
評議員（学外）	外松　豊	評議員（学外）	永井大嗣
評議員（学外）	髙松和子	評議員（学外）	篠田典秀

８．教職員の概要

	常勤教員	非常勤教員	常勤職員	非常勤職員	合　計
法　人　本　部			１		１
飯田短期大学	５３	７０	１５	２０	１５８
飯田女子高等学校	４０	１５	５	３	６３
伊那西高等学校	３５	８	４	２	４９
認定こども園慈光幼稚園	１６	２３	１	７	４７
計	１４４	１１６	２６	３２	３１８

常勤教員には学長・校長・園長を含む

Ⅱ　事業の概要

【飯田短期大学】

１．教育理念・目的・目標等

（１）教育理念

本学は「うつくしく生きる」という建学の精神に則り、それを具現化するための方向性として以下の３つを示します

①私たちは、それぞれが異なる存在であり、異なる存在であることが尊いことを認識し、自分と違った生き方を尊重できる私を目指します。

②私たちが知る世界はごく一部である。真実の世界はそのもっと奥深いところにあることを自覚し、常に学び続けます。

③私たちは、周りの願いに気づき応えていくことで、自分の人生の意義を見出していきます。

（２）教育目的

豊かな人間性と創造力を持ち、高い識見と実践的な態度を備えた、社会に貢献できる人を養成します。

（３）教育目標

①建学の精神を基にし、豊かな人間性を育成します。

②専門的な知識・技術・態度を備えた人材を育成します。

③社会の発展・向上に寄与できる課題解決能力を育成します。

２．教育方針

本学では、以下のような学生を育成します。

（１）卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー（ＤＰ））

①豊かな人間性を備え、高い倫理観と慈しみの心を持って他者と関わることができる学生。

②専門的な知識・技術・態度を習得し、生涯学び続けることができる学生。

③社会の課題に真摯に向き合い、発展・向上に寄与できる学生

更に、各学科専攻の方針に基づき、広い知識と専門性を有して社会に貢献できる人を養成し、学位授与を行います。

（２）教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー（ＣＰ））

卒業認定・学位授与の方針で明記している能力を養うため、基礎教養科目・専門教育科目を系統的に編成します。

①教育課程を通じ、豊かな人間性、高い倫理観、他者とのコミュニケーション能力を養うことができるように編成します。

②基礎教養科目は「うつくしく生きる」と「キャリアデザイン」を必修とし、『人間の理解』『人間と社会』『自然と生活』『外国語』『自己表現』『キャリア』の６分野から科目を選択して、建学の精神と社会人として必要とされる学びが達成されるように編成します。

③専門教育科目は、学科専攻の卒業認定・学位授与の方針を目指し、専門性を備え社会に貢献できる能力を養うために必要な科目を開設し、各種免許・資格を取得できるように編成します。

（３）入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー（ＡＰ））

①短期大学における学修に必要な基礎学力を有している人

②他者を大切にし、自分の人間性や倫理観について考えられる人

③専門的な知識・技術・態度を積極的に学ぶ姿勢のある人

④社会に対して関心を持ち、主体的に学ぶ意欲がある人

３．建学の精神の共有

（１）学生に対する教育の充実

令和５年度は、５月の連休明けより新型コロナウィルス感染症が５類となったため、教育活動のほぼ

全てを「コロナ前」と同様に実施した。

建学の精神を学生便覧へ掲載するとともに、学長の講義「美しく生きる」の全学生の受講を継続した。宗教行事（アセンブリーアワー、釈尊降誕会、報恩講など）については、全学で実施した。また、９月には京都での東本願寺研修を実施した。看護学科１年生の発願式、卒業式は希望する家族の出席を可能とし来賓にも出席いただいた。

（２）教職員への研修等の充実

新任教職員の理解を深めるため、４月の就任研修の中で建学の精神の説明をした。学生と同じく全職員が宗教行事（アセンブリーアワー、釈尊降誕会、報恩講など）に参加し、建学の精神の浸透を図った。

建学の精神については、年度初めの初会議や拡大教授会の場で、学長より話をすることで教職員と共有し、意識する機会とした。加えて学長の講義「美しく生きる」を１年を通じて教職員も聴講できるようにして更なる理解を深めた。

４．入学者の確保

（１）ブランディングについて

校名変更、男女共学化に伴い、公式ホームページ・学校案内をはじめとする広報制作物、広告物等において男女の隔てなく受け入れられるブランディングを推進した。また、メディアからの取材についても適切に対応し､男女共学はもとより本学の教育活動や地域連携活動についても効率的な発信を行った。

（２）オープンキャンパスについて

出願契機に最も影響を与えるオープンキャンパスを３月、６月、７月、８月、９月、11 月に来校型で実施した。参加のべ人数 579 名。受験対象者実人数は 239 名であった。オープンキャンパス経由の出願者数は 161 名、そのうち 153 名が入学し、全入学者の約 89.5%がオープンキャンパス経由の入学者であった。次年度以降については、学生スタッフをより前面に登用したオープンキャンパス運営を行い本学の魅力を更に参加者へ伝えるとともに、出願者、入学者の増加を目指してステークホルダーに対して効果的なオープンキャンパスを実施していきたい。なお、社会人向けの長期高度人材育成コース(飯田技術専門校との連携)での入学者は、介護福祉専攻１名、幼児教育学科１名の計２名であり、前年度よりも１名減少した。

また、個別の学校見学依頼については６件対応し、直接接触の機会を増やすことにより出願数の増加を図った。

（３）動画コンテンツ・情報発信について

戦略的且つ効果的な広報活動を行う上で年々重要度が増している動画コンテンツ、ＳＮＳ（インスタグラム・LINE・ツイッター)を活用することにより、引き続き本学ブランドの確立及び向上を図るとともに、情報発信力の強化を目的に学外の研修会へ職員を派遣した。特に広報課発信のインスタグラムに関しては直近２年間でフォロワー数が約 550 件増え、現在もじわじわと増加を続けている。今後もＳＮＳ等を利用して日々の出来事や教育活動などを丁寧に発信し、ステークホルダーへの積極的で効果的な広報活動を引き続き実施していく。

（４）高校とのつながり強化について

高校生の進路に影響力を持つ高校教員との信頼関係構築と本学の教育活動への理解を得ることを目的とした、高校一斉訪問(6 月～7 月)を実施した。18 歳人口減少による影響を最小限に抑える意味においてもこれまで以上に姉妹校、近隣高校との関係構築は重要事項となる。姉妹校２年生を対象とした短大見学会を実施し、本学の早期認知と理解の契機とする。県外に目を向けると、近隣３県(新潟、岐阜、山梨)からの入学生の確保も意識しつつ、高校訪問、ガイダンス、指定校推薦枠の新規設定により一層注力していきたい。

（５）令和６年度入学者選抜について

近年の受験生ニーズの変化に対応設定した一般選抜(オンライン面接)に関して出願利用はなかった。看護学科専攻科特別進学枠入試に関しては、出願者数は地域看護学専攻5名、助産学専攻4名であり、昨

年度より2名減少となった。特に看護学科専攻科特別進学枠入試に関しては、看護学科志望者はもとより高校教員へも分かり易く丁寧に説明を行い、更なる周知を図っていきたい。

また、ステークホルダーに対して入学者選抜制度を分かり易く、広く伝えることを目的とした入試ガイドを作成し、オープンキャンパスや会場ガイダンス等で有効に活用した。

５．学生支援

学生支援充実のために、アドバイザー（クラス担任）と学生課が連携して、日々の生活や授業に対する支援、キャリア支援、進路支援等を行った。

就職状況は好調に推移し、最終就職率（就職希望者に占める就職決定者の割合）は 100%で例年通り高い水準を維持した。本学に直接寄せられた求人件数は 748 件あり、学生課内のファイルや掲示のほかホームページへ求人情報公開をして学生のタイムリーな就職活動をフォローした。

公務員対策講座 WEB 講座、教員採用試験ガイダンス、ハローワークと連携した就職相談（6 回）等を実施した。就職ガイダンス・就職活動の進め方、卒業生対象キャリアサポートセミナーは、各学科で実施した。また、個別の就職面接指導、個別相談・履歴書添削等を実施するなど、きめ細かな就職相談・支援活動を展開した。

奨学金の対応は学生課が窓口となって申請、手続き等を行った。

＜主な奨学金＞

・日本学生支援機構奨学生(全体)
・長野県介護修学資金（社会福祉事業団）
・長野県保育士修学資金（社会福祉事業団）
・長野県看護職員修学資金
・ソロプチミスト奨学生
・生命保険協会奨学生
・東本願寺奨学金（給付）
・飯田短期大学奨学金

６．地域貢献・地域連携活動の推進

令和 5 年度公開講座は 41 講座を企画・実施した。5 月より新型コロナウィルス感染症は５類となり、対面での講座の開催はスムーズになった。Web で対応した講座は１件あった。

飯田短期大学に校名を変更し、男女共学のスタートを記念して、特別公開講座として姉妹校出身の小平奈緒さんの講演会「人とつながる」を 11 月に行った。地域の皆様にはチケットを購入していただき、希望する学生、教職員合わせて 200 余名が参加した。イ・サンファ（韓国）選手との“友情”をオリンピックの画像とエピソードから理解することなどができた。講演終了後、参加者数名から「良かった」の声が聞かれ、「よしっ！」の心持で日々過ごしてく勇気になったのではないかと感じた。

宗教講座は飯田女子高等学校、宗先生を講師に３回開講した。8 月の夏休み期間中(平日)に「青い麦のように」を教材に 2 回、11 月の土曜日に「阿弥陀の願い」をテーマとし、各回 15~19 名の参加があった。

菱田准教授の「飯田下伊那における障害児・者と家族のあゆみとこれから」の講座は前年に引き続き開講され、参加者 41 名（内 17 名がオンライン）で行われた。

令和 5 年 5 月の松永准教授の講座「やってみよう！紙芝居」をスタートに上記講座を含め令和 6 年 3 月の田中准教授の「フェルトの透明ケース for キッズ」講座まで、企画した 41 講座すべてを実施することができた。

介護予防運動指導員養成講座は一般 2 名、学生 1 名が受講した。本講座は、一昨年（令和 5）度より e-ラーニングが取り入れられており、受講生は 1 カ月の期間、各自理論を学ぶこととなっている。その後、本学のマシーンなどを使い対面での実習（介護予防運動指導員主任：富口講師）を 2 日間行ったのち修了試験を受け、全員合格となった。

その他、介護福祉専攻教員と連携をとりながら介護福祉士実務者研修（通信制）、喀痰吸引等研修を実施し事務作業を行っている。これらの講座は、大きな収益事業となっている。

本学教員の専門分野である栄養・介護・保育・看護などに関連した出前講座においては、飯田下伊那の地域を中心に保育園や小・中・高校、部会などから 12 講座、計 37 の申し込みがあり、多くの児童・生徒および地域の住民などが受講した。

飯田市養育支援家庭訪問登録員養成講座のうち 6 講座を本学の教員が担当し開催した。子どもゆめ基金助成活動事業の計画・実施への協力は、3 講座計画、実施した。

令和 5 年度は、飯田市立鼎小学校よりクラブ活動の担当依頼があり、4-6 年生　16-17 名に、7 月 4 日から 10 月 30 日まで 4 回、4 名の教員が交代で専門分野の講座を担当した。

飯田市地域子育て支援拠点事業つどいの広場の 1 施設である本学設置「わいわいひろば」の管理を行っている。ひろばのスタッフは、入園前の乳幼児とその保護者が、安心して気軽に来所できるよう心がけている。新型コロナ 5 類移行により、5 月より利用者が増加した。令和 5 年度も季節に応じた行事や保護者に向けた講習会などを企画運営した。保護者からの相談に対しては、スタッフが傾聴し適切なアドバイスをするなどの対応をした。

本学は、平成 27 年度より社会人の職業能力開発の専門実践教育給付金制度の教育訓練施設となり、学生への周知と受給のための支援を行っている。令和 5 年度は、専攻科地域看護専攻の学生 1 名および食物栄養専攻 1 年の学生が教育訓練給付金を受給することができた。

その他の業務として、地域流響館内の施設予約およびトレーニングマシーンの管理を行った。

７．ＳＤ・ＦＤ活動

教職員の資質向上及び教育の質の向上を目指し、ＳＤ・ＦＤ活動に取り組んだ。

ＳＤ活動はＳＤ委員会が主体となり、教職員の資質向上に関する事項、事務局の業務や学校運営の改善に関する諸活動を行っている。

主な活動内容

（1）キャンパスライフに対するアンケート

「キャンパスライフに対するアンケート」では、サポート体制、満足度、要望の把握、学習環境の整備・改善を行っている。令和 5 年度についても、オクレンジャーを使用してのオンライン上で全学生を対象にアンケートを行った。

（2）ＳＤ研修会

教職員が大学等の運営に必要な知識・技術を身に付け、能力・資質向上させるためのＳＤ研修会を計画実施した。令和 5 年度のＳＤ研修は、「親鸞聖人の教えを学ぶ（「美しく生きる」を聴講して）（講師：学長）」、「人が育つ　相互尊重のキャンパス作り（講師：井坪まゆ美氏）」を実施した。

ＦＤ活動は、ＦＤ委員会を中心に各学科専攻と連携し、地域に必要な人材の育成とそれに必要な教育の質保証に取り組んでいる。

主な活動内容

（1）新任教職員研修会

新任教職員等 8 名に対し、FD 活動及び本学の理解を目的に実施した。さらに、事務職員と教員に分けて職務に応じた研修を実施した。

（2）ＦＤ研修会

授業改良のため「シラバスの書き方」をテーマに研修会を実施、大学における授業・評価の考え方の根本についての理解を得た。

（3）授業改善アンケート

全授業科目（非常勤教員の授業科目を含む）に対し、授業改善アンケートを実施し、その結果を PDCA サイクル回転に繋げた。

①担当教員：結果返却により、担当科目の授業改善及び学修成果評価の実施
※各教員が授業アンケート等を受けて学修成果評価とともに授業改良のための考察を継続的に提出している。
②学科長、専攻・基礎教養主任：結果確認・評価・指導による学科専攻全体の授業改善の実施

（4）学内公開授業とその評価
授業の質の向上を目的に他教員の授業を参観しその評価を実施した。
（5）学修成果の評価
教員がそれぞれ担当する全て科目についての自己評価を実施し（上記(3)-①）、学科長、専攻・基礎教養主任確認。後に、教務委員会が集約している。

８．各学科・専攻、各部署の取組
＜生活科学学科生活科学専攻＞
１．学生
・学生数１年：31 名 2 年：32 名
・卒業生：32 名
２．学びの分野ごとの主な活動内容
（1）デザイン：学修成果の学内外へ発信と地域貢献
①卒業作品展（学内：学生ロビー・学外：飯田創造館）
②学園祭、卒業作品展における作品展示
③（有）スミツネとの共同制作
④獅子舞フェスタへの作品出展
⑤ひさかた和紙の会との共同制作・染め技法によるデザイン制作
地域発信：暮らしの学習交流会(10 月 14 日(土)：上郷公民館)
キャリア教育フォーラム(2 月 10 日(土)：鼎文化センター ※学修成果発表は隔年
⑥資格取得：色彩検定３級：4 名・色彩検定２級：2 名
（2）養護教諭：確かな専門知識と細やかな就職支援
①教員採用試験対策（学力・面接）の実施　※既卒者も含む
②就職相談を随時実施　※教育機関及び教育委員会との連絡調整
③長野県教育委員会説明会の開催
・養護教諭２種教員免許取得者：14 名
・保健児童ソーシャルワーカー：9 名
・就職状況：養護助教諭等：5 名・進学：5 名（内本学専攻科：4 名）
（3）医療事務：資格試験合格のための対策強化
資格試験に準じた試験対策の実施
・メディカルクラーク(医科)合格：19 名
・メディカルクラーク(歯科)合格：12 名
・ドクターズクラーク合格：10 名
・ホスピタルコンシェルジュ合格：8 名
・調剤報酬請求事務技能認定：12 名
２．専攻全体としての主な活動内容
①学修成果の可視化を目的とした『学習成果ノート*』の配布　*学習成果ノートの学習は「習」と表記している
②専攻のカリキュラムを図式化したカリキュラムツリーの活用
③学修成果の学生の自己評価と教員の学生指導を目的としたルーブリックの実施
３．専攻全体としての主な活動内容

①学修成果ノート：学修成果のポートフォリオ（可視化を目的とした）『学修成果ノート』の配布
②カリキュラムツリー：専攻のカリキュラムの系統を示したカリキュラムツリーの活用
③リーブリック：学修成果の自己評価と教員の学生指導を目的としたルーブリック評価の実施

＜生活科学学科介護福祉専攻＞
１．専攻の重点項目
（１）在学生への満足度を高め休退学０目指す
①個別ケアが必要な学生に対して、担当制をひき早い段階で課題を明確にして指導することで、休退学者は０であった。
・チームとして学生指導を行っていくために、教員同士の情報共有・連携を行った。
・介護実習に向けて、個別指導を充実させ、実習の担当が、１年時の課題を整理し２年次につなげるようにした。
・２年生に対して、自己課題の克服まで指導できなかったため春休みに指導したが、早期に対応していく必要がある。
・国家試験に対して個別に対応してきたが、取り組めない学生もいた。
②学生主体のわかりやすい授業を追求する。
・教員自身が授業力を向上する。
・介護総合演習など複数教員が参加する授業では、毎回振り返りを行い伝え合う。
・学生の活動を増やし、楽しい授業を展開する。
・学習成果のアンケートを活用し、改善する。
⇒公開授業を行いお互いに授業に参加して意見を交換した。コミカードを活用し、その都度学生の質問に対応した。
③利用者役、介助者役を交互に体験しながら学ぶ生活支援技術を共学の場でも配慮をしながら行う。
⇒共学になったからこそプライバシーについて考え、より実践的に学ぶことができた。昨年度までは、感染対策で実技を控える部分もあったが、今年度はコロナ以前にもどり実際にお互いに介護技術を体験し合えた。
④地域で活躍する専門職から他職種連携を学ぶなど、多様な授業サポーターを取り入れ様々な人と出会えるよう系統的に授業を組む。
⇒様々な専門職に出会えることで、将来自分の働く姿を想像し就職活動に繋がった学生もいた。
⑤犬との生活を継続し、人間の多様性を理解できるように授業を展開する。
⇒犬の世話を通して学ぶ姿が見られた。
・授業では、犬のふれあい活動を介護施設で行うことはできなかったが、介護実習の中で犬好きの利用者さんに犬を合わせることができた。
（２）定員充足を目指す
⇒定員充足未達成（男子２名　女子１４名）
①介護福祉専攻について、広報活動を行う
・事業所とのつながりを校名変更の挨拶に出向いて行く
⇒実習先へは挨拶できた。
・卒業生と繋がりを絶やさず、情報を発信していく
⇒今後も継続していく
教員不足のため、広報活動が充実できなかった。
②ダブルライセンスの獲得
・介護福祉士＋社会福祉士のダブルライセンスをアピールする。
・介護支援専門員資格取得とめざし活躍している先輩の事例を集める。
・編入後のキャンパスライフや大学卒業後の姿を示す

⇒編入後の卒業生が地元で就職するので、オープンキャンパスに来てもらい話をしてもらう。

③障がい者スポーツで地域とつながる。

・車椅子バスケに加え、ボッチャなど新たに障害者スポーツを体験できるようにする。

⇒オープンキャンパスで、ボッチャを取り入れた。高校生にも体験者がおり楽しむことができるとわかった。

④オープンキャンパスの充実

・新しい資格導入の検討

・競合校等の情報を確認

２．本科以外の事業

（１）介護福祉士実務者研修－通信課程 40 名　4 月～10 月　受講生 38 名

（２）公開講座　国家試験対策講座　基礎編　４名

国家試験対策講座　応用編　４名

国家試験対策講座　５名

災害時介護福祉士に何ができるのか　１８名

（３）元気づくり支援金関係　講座

３．令和５年度の反省

年度途中で教員の退職があり、学生に対して万全の職員体制が取れなかった。実際、多様な学生がいる中で教員不足により、各教員が業務過多に陥ってしまったと考えられる。来年度は、１年かけて体制を整え外部への仕事を再開できるようにしていきたい。

＜生活科学学科食物栄養専攻＞

１．専攻の主な活動内容

（１）調理実習や給食管理実習を通して、実践的な教育を実施した。

①学生は、基本的な調理技術を身につけた上で、学内外の施設で給食管理業務を体験することができた。

②学生は、実習での献立作成を通して、各疾患をコントロールする食事や乳幼児期、高齢期の食事について学んだ。

（２）教育の一環として、学生が地域や企業と連携した食品開発を行った。

①自分たちがこだわりぬいたものを作り出す達成感を体感した。

②製パン、製菓技術をプロから学んだ。

②レトルト商品のメニュー開発について、レストランの経営者から学んだ。

④食品開発実習を通して商品化、メニュー化を行った。

（パン：「こんにゃくクリームパン」「源助明太ポテト」「Coffee　break！」「おにぎりパン」「バタークリームりんごパン」「りんごロールパン」「信州和風ピザパン」「ウインナーコーンパン」）

（焼き菓子：　「ほうじ茶マロンダックワーズ」

⑤開発した商品を報道発表を通してアピールした。

（３）在学生、卒業生への支援

①　研究への取り組み→　フィットネスクラブ利用者に対する栄養指導

②　学生・卒業生の希望に合わせた就職支援→　企業研究、栄養士会との連携、模擬面接

③　サークル活動の支援（スポーツ栄養研究会、ご当地グルメ研究会、なべの会、マンガ飯）

２．本科以外の事業

（１）地域の食育への取り組み

①スポーツ食育の活動

・高校運動部（野球・ラグビー・空手）選手への栄養サポート

②出前講座（中学校、フィットネスクラブ）

・体組成計、骨密度計の活用と食事指導
③災害時栄養（パッククッキングの普及）への取り組み（公民館）
（２）管理栄養士国家試験対策講座
（３）飯田メディカルバイオクラスター（ルミナコイド研究会）・伊那谷アグリイノベーション推進機構・長野県栄養士会ほか
（４）防災講座（パッククッキング）、産業振興（地域食材の啓発）、食の科学体験教室　※補助金事業

＜幼児教育学科＞

１．学科の重点項目

これまでの方向性を確認し、引き続き教育内容の充実と学生募集の２つの視点からの取り組みを行う。

（１）教育内容の充実

１）学習の課程、系統の整理から学修成果の把握へとつなげることができる資料作成

①カリキュラム系統図「キャリアマップ」の作成

1 年生前期科目、キャリアデザインにおいて保育士・幼稚園教諭に必要な専門科目の関係性を視覚的にとらえられるよう、科目を分類した「学びのマップ」および学期ごとに履修科目を整理し、表にした「キャリアマップ」を合わせて示し、学びのイメージを持つことができるようにした。履修カルテを１年次、２年次に分け、学修成果を段階的にとらえられるようにした。

②「キャリアマップ」を用いた２年間の学修成果の評価

2 年生後期科目、保育・教職実践演習において、履修カルテ、および保育内容 5 領域チェックリストによる学修成果の振り返りを行い、自身の強みを確認し、社会人としての今後の課題設定を行った。

履修カルテでは、履修科目の到達目標対する３段階の自己評価を行い、5 領域チェックリストでは、具体的な技能、知識の習得に対して５段階の自己評価を行った。さらにこれらを基に自由記述による学修成果のまとめを行った。記述による振り返りと課題設定の過程において、質的な観点から省察を深めることができたのではないかと考えられた。キャリアマップとの関連付けについては、今後も検討していく。

また保育者特性インベントリー（NTI）を実施し、入学直後のキャリアデザインで実施した NTI の結果と比べ、保育者としてどのような力が向上したか、各特性の点数の変化と内容を基に省察する機会とした。

２）学内の学びと学外実習をつなぐ段階的な学び

現場での保育経験のある教員の講義では、子ども達の姿や興味関心から活動を計画した実践例を中心に授業を展開した。実習のみならず、現場で保育士として働く際に必要となる知識や技術を身につけるため、教材研究や指導案の作成等のグループワークを行い、互いに意見を伝え合いながら学びを深めた。

また、実習生受け入れ経験のある教員による実習生として求められる技能・知識、態度等についての講義を行い、実習日誌の記入方法、実習手続きの方法を身につけ、実習生としての自覚を持ち、実習に臨むことができた。

令和５年度　学外実習実施状況

免許・資格	期間	実施時期等
幼稚園教諭（二種）	１年次 10 日間	通年　慈光幼稚園他
	２年次 10 日間	夏季休業中　出身地域の幼稚園等
保育士	１年次 10 日間（保育所）	学年末休業中　出身地域の保育所等
	２年次 10 日間（保育所ま	後期　出身地域の保育所等

	たは施設）	

・令和５年度入学生の保育実習Ⅰ（施設・10 日間　）は、令和６年前期（2 年次）に行う

２）Ｅｘｐｒｅｓｓｉｏｎの可能性を広げる

新型コロナウィルスが５類へ移行したこと、また感染状況の拡大がみられない状況であったことから、本学講堂を会場として、一般公開のかたちでの発表会を計画、実施した。観覧はＷＥＢでの事前申し込み制とし、姉妹園（３園）、わいわいひろば、２年生の保護者に案内を配布し、地域連携センターを申し込み、問い合わせの窓口とした。当日は約１００名が来場された。観覧に際し、会場内のマスクの着用に協力いただき、無事公演を終えることができた。また、保育現場での実践につなげるために、慈光幼稚園への出前公演を実施した。

令和４年度より準備・練習段階で１、２年生が協働する場を多く取り、１年次から主体的に関わることを目指してきた２年目となり、２年生が自主的に取り組む姿があった。発表会当日は、観客（子ども）を意識して表現にも熱が入り、観客の反応を実感することができた。

脚本集の作成について準備を進めている。

（２）学生募集活動

１）現役保育士による保育職の魅力発信

２回のオープンキャンパスにおいて、地域の保育現場で活躍する保育士の方々に体験授業を依頼し、実施した。手遊びや絵本の読み聞かせ、パネルシアター等を含め、保育士に必要なスキルについて実践を通し、幅広く伝えていただいた。参加の高校生の他、学生スタッフ、教員も活動に加わり、コミュニケーションを通して保育職の魅力を肌で感じ、学び合いの機会とすることができた。

・７月

本学卒業生　姉妹園他、身近な地域に勤務する保育士

体験授業：新聞紙を使った製作遊び、パネルシアター

・８月

南信州有志保育士連合「傾奇組」：南信州で働く現場保育士の有志グループ

体験授業：コマ回し、けん玉、手遊び、絵本の読み聞かせ

２）SNS の活用

SNS では、行事や特別授業での学生の様子を中心に発信した。

3)男子学生の YOCG（幼教オープンキャンパスガイド）への呼びかけ

学生スタッフとして男子学生の参加があった。体験授業では、グループワークにより参加者とコミュニケーションをとりながら、教員と学生スタッフとの協働による募集活動を展開することができた。

２．本科以外の事業

飯田市保育補助員支援員研修（飯田市より依頼）６月～１１月

＜看護学科＞

学科の重点項目の１つ目である「学生の満足度を高め、留年による休学、その後の退学という経過をたどる学生を減らす」については、数値としての成果は得られなかった。１年次学生の１名が休学後復学したものの退学、２年次学生の１名が留年による休学を経て退学、３年次学生の１名が留年が決定し退学、もう１名が休学を経て退学という結果となった。留年者および休学者の面談はより丁寧に行いっている。一方、退学を考えていた学生が、他学科へ転科の意思を示したという事例も複数あった。クラスアドバイザー及び担当アドバイザー、ゼミ教員等によるきめ細やかな関わりは継続できた。具体的には、成績不振の学生に対して面談し学習の様子を聞いて助言したり、学習に集中できない学生にはその理由を聞き対策を一緒に考えたり、学生との連携を図った。看護学科での学習の継続が困難な学生については、その背景を知り、必要があれば継続のために休学をして心身ともに整えたり、進路変更のため転科の道筋を丁寧に支援した。退学に至る場合も、すぐに結論を出すのではなく、その学生にとってどのような方向性で進ん

でいくのが一番良いかを多方面から一緒に考え、結論を出すよう関わった。成績良好の学生には、その学生の力量に合わせ、教員が個別的にかかわった。全学生の学習効果が向上するように、日常の関わりを大切にすることを継続して取り組んだ。

2 つ目である「定員充足をめざす」については、共学化がスタートしたが、定員を満たすまでには至らなかったが、4 月当初は、56 人の入学生のうち 10 人が男子学生であり、まずまずのスタートとなった。「専攻科特別進学枠入試(以下特進枠とする)」の入試方法を導入し 3 年目になるが、この方法のみでは定員の充足は難しい。地域の人材獲得に向けて、公開講座やガイダンス・授業を精力的に実施してきたが、18 歳人口の減少が課題となる昨今、学科単位ではなく、学校としての対策を講じる必要性がある。学外の講座では、近隣の中学校からの性教育やがん教育の依頼があり、その際に教員や対象の生徒に対して看護や本学に興味が持てるよう情報提供も行った。要望に応えるのみでなく、本学からのアピールを行っていく必要がある。

その他、令和 4 年度からスタートした新カリキュラムに関して、学習成果の評価を実施する予定である。次年度は、全学年が新カリキュラム対応となる。ルーブリック評価の活用を、重点的に進めていく予定である。

＜図書館＞

１．図書・学術委員会

（１）学術研究助成：0 件

（２）紀要 40 集（2023）発行部数 430 冊・リポジトリ WEKO3 に登録

（３）学内研究集談会を視聴覚室で開催

Part 1 令和６年 2 月 20 日　参加人数 57 人／Part2 令和６年 1 月 25 日～2 月 20 日

２．図書館

（１）図書・雑誌・電子ジャーナル・視聴覚資料

・信濃毎日新聞データベース　利用状況に合わせた契約プランの変更（2023.4-）

・2023 年度図書（資産）除籍　図書 705 冊、教員研究費図書 69 冊、備品 38 品（2023.12）

・保存年限が切れた雑誌の除籍、放出（2024.2）

・メディカルオンライン　利用状況に合わせた契約プランの変更（2024.2-）

（２）館内展示、利用教育、広報（抜粋）

・特集コーナーを twitter、instagram で発信

・新入生対象館内ガイダンス全クラス実施（2023.4）

・釈尊降誕会を紹介する展示（2023.4-）

・図書館 OPAC URL 変更（2023.5）

・図書館で千本つり大会（2023.6.12-）雑誌付録プレゼント企画（参加者：学生 75 名、教職員 4 名）

・いいたんおしゃべり読書会（2023.7.19）

・試験前開館（2023.7.29-30 2024.1.27,28）

・食物栄養専攻２年生　千先生の授業で文献検索ガイダンス（2023.9）

・介護福祉専攻１年生　太和田先生の授業で図書館を利用した調べ学習ガイダンス（2023.10）

・看護学科２年生　授業で文献検索ガイダンス（2023.11）

・「飯田市立図書館アンケート」への協力（2023.11-2023.12）

・図書館でガチャガチャ（2023.12-2024.1）雑誌付録プレゼント企画

・バリアフリー図書展示（2024.1.9-2024.1.25）

（３）他館との連携

①長野県図書館協会大学専門図書館部会図書館研究会への参加

・隣は何を読む人ぞぅ　51 号～54 号発行、ヨムゾー目隠し本の開催　ヨムゾー大賞の実施
・図書館研究会夏期研修会「図書の修理方法」(2023.9.5)
・上田女子短期大学「うえじょとしょかんのひ」への参加（2024.2.3）
・図書館研究３月定例会への参加（2024.3.25）
②図書館大会への参加
・第 73 回長野県図書館大会（2023.10 松本開催）/基調講演・大学部会　参加
③姉妹校図書館との連携
・飯田女子高校図書館の見学（2023.6.6）
（４）COVID-19 対策（2023.5.8 にコロナが 5 類になり、2023.5.11-以下の対応に変更）
・朝の清掃で、パソコン・コピー機・自動貸出機・トイレなどアルコール消毒
・適宜窓を開けての換気
（５）その他
・健康センター：ミニ図書館を設置（本の入れ替え）
・食物栄養専攻：防災用イラスト作成
・看護学科：「コツこれ！」第 5 版 3 章執筆、表紙、挿絵作成
・地域連携センター：公開講座チラシ作成、特別公開講座チラシ・チケット作成
・図書のカビ取り（2023.12）
・学生用 PC1 台故障のため、学内の使っていない PC と入れ替え
・食物栄養専攻：パッケージシール作成
・看護学科：「コツこれ！」第 5 版 3 章執筆、表紙、挿絵作成
３．飯田短期大学リポジトリ
・リポジトリ WEKO3 への移行確認作業（2023.6）
・『飯田短期大学紀要』40 集を公開
・学生にリポジトリ周知のため、リポジトリについてのプリントを配布
・信州共同リポジトリ 2023 年度研修会(2023.11.27 オンライン会議)
・信州共同リポジトリ年次報告会(2024.3.21 オンライン会議)
・論文登録総数　　179（-2024.3.19 現在）
・訪問者数　1,863,647（-2024.3.19 現在）
・論文登録数 7（2023.4.1-2024.3.19 現在）
・ダウンロード件数　211,502（-2024.3.19 現在）

＜健康センター＞
１．学生の定期健康診断の実施
4 月 5 日（水）実施　健康センター委員及び各学科・事務局よりスタッフの協力を得て、昨年同様に新型コロナウィルス感染症等の感染対策を講じて実施。おおむねスムーズに行うことができたが、前日が入学式であったため、新年度の活動と重なり学生や教職員に余裕（時間的・心情的）がなかった様子あり。
２．教職員定期健康診断および特定健康診査、ストレスチェックの実施
・健康診断　集団検診は 11 月 10 日（金）実施
・腫瘍マーカー検査について、癌の早期発見・早期治療を目的として、健康診断対象者のうち 40 歳以上の人を導入。令和 5 年度は CEA 検査を実施
・胃の疾病及び異常の有無の検査について、法定検査（学校保健安全法）項目でもあることから、検査を受

けやすい環境を整えるため、胃内視鏡（胃カメラ）検査の費用補助制度を導入
・ストレスチェックについて、健康診断と同時期に実施。中部公衆医学研究所にて分析、衛生委員会にて報告
・健康診断未受診者及び健康診断後の受診勧奨（通知配付・声かけやメール送信）等の実施、相談窓口案内の配布等

３．学生および教職員の応急手当、緊急時搬送

①健康センター利用状況

外科系：99 件　内科系：102 件　相談：19 件　その他：86 件

②緊急時搬送

病院搬送・救急搬送の実施

４．学生および教職員の健康相談および保健指導

・医療機関情報の紹介、受診相談、受診勧奨など

５．感染症に関する活動

①感染症報告

・新型コロナウィルス感染症　73
・インフルエンザ　28
・その他感染症　　2

②感染症予防活動

・健康チェックシートの作成・配付・回収依頼（5 月連休まで）。新型コロナ感染症の分類が 5 類に位置づけされたことにより、各学科による実習等に合わせた対応へ移行
・消毒用アルコールボトル、アルコール除菌シート等の設置、補充、行事日（入試・発願式・学園祭等）の貸出
・ハンドソープ補充　随時
・健康センターだより発行（新型コロナウィルス感染症等に関する情報　他）
・長期休業明け体調確認の強化　オクレンジャーを活用した注意喚起

６．健康増進活動

①学生・教職員対象　健康情報の発信

健康センターだより発行 4 回（感染症に関する情報及び感染予防、生活リズム、熱中症予防）など
掲示板への掲示　随時（健康センターの紹介、感染症情報、各種相談窓口情報）など

②教職員対象　メンタルヘルス研修会開催

令和 6 年 2 月 20 日　14：00～15：30　「産業医が伝えるメンタルヘルス」
講師：飯田短期大学産業医　松原　直樹　氏
保健養護棟 2F　視聴覚室にて　　45 名参加

③学生メンタルヘルスカウンセリング

メンタルヘルスカウンセリング 4 月～2 月に計画、申込みにより実施
外部カウンセラー対応

【飯田女子高等学校】

＜全日制課程＞

１．新型コロナ感染症感染拡大防止対策を考慮した学校運営（全国及び県立高校と合わせた対応）

令和５年５月８日に新型コロナウイスルが５類へ引き下げられ、全国的に徐々にではあるが、コロナ前の生活へ戻る動きが出てきた。本校においても、諸活動においてコロナ前に戻すことを前提に活動を行ったが、感染の波がくることがあり、本校では５月に１クラス学級閉鎖（１日～３日）、９月に１クラス学級閉鎖（９月１１日～１２日）、１１月に１クラス学級閉鎖（１１月２０日～２３日）を行うこととなった。教職員も複数がコロナに罹患した。文化祭においては、招待者に制限を設けて実施するなど、一年を通じて、基本的な感染症対策を実施しつつ、リスクの高い活動については、校内の感染状況に応じて対策をとりながら実施した。体験入学や制服採寸、入学手続きは密集を回避するために分散開催を実施した。入学式では来賓と保護者の制限を行い、保護者のＨＲ参加は辞退して頂き、講堂にて保護者向けに説明を実施した。卒業式は、来賓の制限は行ったが、保護者の参加は人数制限を撤廃し、ＨＲへの参加も再開した。行事等においてのマスク着用協力については、文部科学省の指針からずれるところもあり、教職員や生徒においても混乱が生じた。

２．教育活動（教育方針・カリキュラムの特徴・変更点等）

［本校の教育方針］
本校は教育基本法並びに学校教育法に則り新しい時代に相応しい健全な家庭人有能な社会人として教養豊かなる女性を育成することを目的とし特に仏教精神を基盤とした情操道義の教育に重点をおく。

学校目標に「和顔愛語 先意承問の精神」「Ｂ・Ａ・Ｓ・Ｅ」（勉強・挨拶･掃除・笑顔を大切にする）を掲げるとともに、大切にしたい３つのことばとして「いのち・時間・ことば」（「いのち」＝かけがえのないいのちと、自分自身にかけられた願いを感じ取る。「時間」＝二度と戻らないこの時を大切にする。「ことば」＝時と場合に応じたことばの使い方をする。）を掲げた。これらの重点目標のもと、授業、行事、クラブ活動等様々な活動を通して教育方針の実現を目指した。

３．学習指導

学年が上がるにつれ多くの生徒が前向きな姿勢で学習活動に打ち込み授業への取り組みや学習習慣が身についてきている。業者テストを取り入れ、1・2 年生全員対象に、実力診断テストを 4 月と 8 月の 2 回実施した。より継続的な指導ができるようデータの活かし方を模索中である。下校時間から 20 時 30 分まで、希望者による自主学習「夜ガク」も定着し、総合コース・進学コース隔てなく参加生徒の学習時間の確保・学習意欲の継続につながり、学力定着に確実に結びついている。

教員の資質の向上を図るために研究授業を実施するとともに、さまざまな校外の研修会に参加し本校ならではの授業形態の構築に努めてきた。全学年 iPad を利用し、教員も徐々に慣れてきた。ロイロノートを ICT 学習の中心に展開できるめどがたった。今後、様々なサービスが出てくるが、学園としてどのような教育を行うか、どのようなソフトを使用するかを検討し、効率よく時代に合った教育活動ができるのか検討していくべきである。探究活動としては、進学コースはＥクラスを１つのモデルとして、総合コースは家庭科を中心として実践してきた。しかし総合コースにおいては、人事の都合によりその継続が不可能な状況になっている。クラブ活動も含め職員の負担になりすぎることのないような仕組み作りが早急に必要である。

４．進路指導

卒業生の進路内訳は進学が全体の８７％、就職１０％であった。概ね本人が希望する進路を実現しているようにみえる。特に、国公立大学に８名の合格者を出せたことは教職員の努力だけでなく、生徒たちが最後まで諦めなかった結果である。

近年の進路の傾向は、「一般選抜まで受験をする生徒の増加」「総合コースの生徒の中にも国公立大学希望者が増えている」「四年制大学進学者数の増加」という前向きな傾向がでてきた。特に四年制大学への進学者数は増加傾向にあり、以前は２０％台だったが、令和２年度から３０％台へと増加し、令

和５年度には３８％となった。高みを目指す生徒が増えているとも考えられる。

一方で悪い傾向もわかった。それは「専門学校への進学者数が以前から増加傾向にあった」ということである。平成２９年度の２５％から始まり、２０％台をずっと保ち続け、令和３年度は２９％となり、約３人に１人が専門学校へ進学していたことになる。

専門学校進学者の増加の弊害として、「飯田短大への進学者の減少」が考えられる。特に令和４年度に顕著に表れている。専門学校進学を全て否定する訳ではないが、生徒と保護者による「安易な進路選択」と高校側の「安易な進路指導」の二つが原因であると考えている。もちろん専門学校の積極的な営業も原因の一つだ。下の『飯田女子高校と飯田風越高校の進路状況（内訳）の比較を参照していただきたい。

令和６年度の進路指導は「高みを目指す進路指導」を合言葉にしたい。そして生徒、保護者に「安易な進路選択」をさせないように、また、高校側が「安易な進路指導」をしないように心がけたい。その対策の一つとして、「専門学校進学のリスク」をしっかりと生徒と保護者に理解させたい。その一方で飯田短大や四年制大学の魅力を伝えるような進路指導、進路イベントを考えていく予定である。

５．キャリア教育・探究活動

国際化、情報化の急速な進展により社会構造も急速にかつ大きく変革し、知識基盤社会のなかで、新たな価値を創造していく力を育てることが学校現場では求められている。2020 年度から始まった大学入試改革により、大学入試は学力の３要素を「多面的・総合的に評価する」入試へと変わりつつある。これは、知識・技能の確実な習得はもちろん、それをもとにした思考力・判断力・表現力の向上、そして、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の育成を目的としている。本校では、学校生活の全てが生徒たちにとってのキャリア形成の場であると考えているが、特にキャリアガイダンスや職場体験等を通してさまざまな職業を知り、仕事に対する意識を高めるとともに、自治体や企業の協力のもと生徒たちに様々な人との出会いや活動の機会を用意している。生徒たちは様々な人との出会いを通して視野を広げ、他者と協働することで人々の思いを知り、地域の魅力や課題に気づく。さらに、自分に出来ることは何かを考えることを通して地域や自分自身についての理解を深め、将来どのように社会に関わっていくかを考えて自らの進路を選択していく。現在、飯田市をはじめ飯田下伊那地域では、高校生と地域・大学・企業等をつなぐ事業に注力している。このような事業との連携は、社会で必要とされる力を生徒たちが実際に発揮するチャンスである。本校のキャリア教育では、生徒たちが活動を通じて得た知識や人々との繋がりを活かして自らの将来を自らの手で切り拓いていけるように、また、積み重ねてきた活動実績を用いて自信をもって入試に挑戦していけるように、生徒の今と将来を繋いでいく。学びの主役は生徒だが、その授業をデザインし、コーディネートするのが我々教員の役目である。生徒ひとりひとりのキャリア形成に向け、保護者や地域・企業の方々と更なる協力体制を構築していく。

１．目標

確かな学力と豊かな人間性を併せ持つ総合的な生活力のある生徒を、地域社会と連携・協働して育成し、生徒の「今」を教科とつなぎ、地域社会とつなぎ、世界とつなぎ、未来とつなぐ。

２．育てる力

・多様な人々の考え方や立場を理解し、意見を聞いて自分の考えを正しく伝えたり周囲と協力したりして様々なことに取り組む力。
・様々な体験を通して、社会規範やマナー等を学び取る力。
・学ぶことや働くことの意義を理解し、社会人や職業人として将来を設計する力。
・希望する進路の実現に向け、課題を明らかにし、それを解決するための計画を立て、実行する力。

３．指導方針

・学校生活全般をキャリア教育の場と捉え、生徒ひとりひとりが主体的に取り組み、他者と協働して活動する機会を増やす。（HR 活動, 生徒会活動, クラブ活動, 学校行事, 授業, 進路研究, ボランティア活動, 検定取得 等）
・教科指導や課外活動、特別活動など、各取り組みのつながりを意識し、卒業後を見据えた系統的な指導を目指す。
・地域や世界の現実や様々な課題に目を向け、自己の生き方について生徒自身が考えを持てるように努める。
・実習、職場体験、進路ガイダンス、キャリアガイダンス等は事前・事後指導を大切にし、基礎的汎用的能力の向上を目指す。
・家庭や地域社会、大学、産業界等の支援のもと、連携して体験活動を推進する。
・ロイロノート等アプリを活用した事前・事後学習（振り返り）を行い、生徒自身が活動を振り返る資料

とするとともに次年度の取り組みに生かす。

４．取り組み（キャリア教育・探究活動推進係主催）

新型コロナウイルスの 5 類引き下げに伴い、以前の対面式進路ガイダンスおよびキャリアガイダンスを企画。キャリアガイダンスについては、生徒の参加の利便性等を考慮し、平日の授業時間を活用し、年間を通じ・短時間・回数を増やして実施した。

①進路ガイダンス（進路指導委員会と連携）

6/6　1、３年生進路ガイダンス、2 年生飯田短期大学見学

6/15　進路相談会

6/24　保護者対象進路ガイダンス

〈講師〉(株)ベネッセコーポレーション　小見 貴大様

〈内容〉親子で考える進路講演～保護者として知っておきたいこと～※オンライン実施

7/25　１年生 ４年制大学進学希望者対象ガイダンス　※夏休み特別指導開講式にて

〈講師〉日本福祉大学　入試広報課進学アドバイザー　田中良二　先生

〈内容〉進路希望実現のために、１年生の夏休みにすべきこと

11/6　1・2 年生　進路学習

〈内容〉1 年生：大分野別説明会（株）昭英広報

2 年生：小分野別相談会（株）昭栄広報

11/29 ２年生　四年制大学・看護・医療系進学希望者対象ガイダンス（進路指導主事講話）

〈内容〉・入試までの流れ、学習への取り組み、校外模試について

・飯田短期大学 看護学科 指定校推薦基準等について　他

1/20　2 年生保護者対象進路ガイダンス（学年 PTA にて）

〈講師〉(株)ベネッセコーポレーション　濱田　崚登様

〈内容〉新課程移行後の大学入学共通テストについて、年内入試について　他

②飯女と地元企業とを「つなぐ」ガイダンス

（飯田市産業振興課および「高校生と地元企業とをつなぐ事業」協力企業と連携）

大学等への進学により、地元を離れてしまう若者の割合が高い当地域において、高校生の早い段階から卒業後に地元で就職したいと思える動機付けを行うこと、職業観の形成や将来に向けて積極的な進路選択ができるようにすることを目標に産業界と連携し、地元企業のガイダンスを実施。様々な職業の方から実際にお話を伺った。

＜実施例＞

06/12　中田製絲株式会社（シルクホテル）

06/12　美容室 Aphrodite’

08/10　健和会病院

11/13　株式会社　アイスク

12/11　シチズン時計マニュファクチャリング株式会社

12/11　株式会社　丸中中根園

③学輪 IIDA 共通カリキュラム高大連携フィールドスタディ説明会開催および参加

地域を知る・大学の学びを知る・様々な人との出会いを通して視野を広げるための学びを紹介。大学生と一緒に地域を学ぶ魅力を伝えた。（飯田市と連携）

④職場体験案内

Ⅰ：医療職体験（健和会病院主催）

Ⅱ：福祉の職場体験（長野県社会福祉協議会主催）

⑤インターンシップ案内・調整

飯田市産業振興課「高校生と地元企業とをつなぐ事業」協力企業と連携

＜実施例＞

03/24　株式会社イイダアックス（高森町・家具製造業）

⑥探究活動　〈実施例〉

5～３月　「2023　高校生発想の新しい家具を一緒に創ってみませんか」イイダアックス（高森町）

進学コースＳクラス３名、Ｅクラス１名が参加し、他校生とともに家具を考案。

５月　「捨てないだけでできること」飯田女子高校（飯田市）

進学コースＳクラス３年生１名が企画。ボーイスカウト飯田第１団と協働し、(株) ファーストリテイリング社製の古着を校内で回収･同社を通じて海外の難民キャンプに送る活動を行った。

5 月～10 月　浴用化粧料「マジカルバスパウダー」の販売　御大の湯（高森町）他

進学コースＥクラス３年生１名が、温泉の素.com（株）と共同開発した色が変わる浴用化粧料を、高森町の助成を受けて商品化し販売した。

7/30　「高校生による合同高校説明会」丘の上結いスクエア（飯田市）
進学コースＥクラス３年生２名が、市内５校の高校生有志からなる実行委員会を組織し、高校生が中学生に対話を通して在籍校の魅力を紹介するイベントを行った。

8/8　探究活動発表会　飯田女子高校（飯田市）
進学コースＥクラス３年生８名が３年間の探究活動の成果を発表した。

11/15～17 フードドライブ①　飯田女子高校（飯田市）
進学コースＥクラス２年生１名が校内で実施し､集まった食料品を飯田市社会協議会に寄付。

12/9～10　日本原子力財団主催第６回課題研究活動成果発表会　東京大学（東京都）
進学コースＳクラス２年生３名、Ｅクラス１年生３名が参加。２年生のチームが優秀賞受賞。

12/9～10　マイプロジェクトアワード 2023 長野県 summit　（オンライン開催）
進学コースＳクラス１年生４名、Ｅクラス３年生２名が参加。

12/16　第１回長野県高校生探Ｑフェスティバル 2023　長野県総合教育センター（塩尻市）
進学コースＥクラス２名が探究活動の成果を発表。

12/21　第８回長野県私学振興大会　キッセイ文化ホール（松本市）
進学コース３年生２名が探究活動の成果発表を行うとともに、理事長表彰を受賞。

1/17～19　フードドライブ②　飯田女子高校（飯田市）
進学コースＥクラス２年生１名が校内で実施し、集まった食料品を飯田市社会協議会に寄付。

1/27　マイプロジェクトアワード 2023 長野県 summit　ホテル信濃路（長野市）
進学コースＥクラス３年生２名が出場、教育委員会賞受賞。

2/11　飯田市キャリア教育推進フォーラム　飯田市鼎文化センター（飯田市）
進学コースＥクラス３年生２名が登壇し、探究活動の成果を発表。

3/21　「高校生の子育てイメージ UP 大作戦」　上郷公民館（飯田市）
進学コースＥクラス２年生１名が飯田短期大学の協力を受け、市内の子育て世代と高校生の交流を通して、若者世代が子育てにポジティブなイメージを抱くことを目的としてイベントを開催。

６．中高・高大連携等

飯田女子短期大学との高大連携授業
・「心理学」３年生受講（飯田女子短大進学時の単位として認められる）
・本校「家庭科」への出張授業
1 年次：「子育て支援」講座　宮内愛先生（２時間×進学２クラス）
2 年次：「子育て支援」講座　宮内愛先生（２時間×４クラス）
2 年次：「家庭看護」講座　神澤絢子先生（２時間×４クラス）
2 年次：「自然保育」講座　中本貴規先生（２時間×４クラス）
3 年次：「スポーツ栄養」調理実習　友竹浩之先生（２時間×４クラス）
3 年次：「子育て支援」講座　宮内愛先生（２時間×１クラス選択授業）
3 年次：「子育て支援施設（わいわい広場）」体験実習　宮内愛先生（２時間×１クラス選択授業）

７．生徒指導

①講演会
・4 月１１日（火）着こなしセミナー　対象：1 学年 215 名
講師：株式会社トンボ　髙貫菜穂氏　（視聴覚室にて実施）
・4 月１２日（水）スマートフォン講演　対象：1 学年 215 名
講師：セイフティーネット総合研究所　南澤信之氏　（視聴覚室にて実施）
・７月１４日（金）性被害防止講演　対象：1 学年 215 名
子どもの性被害防止教育キャラバン隊県警スクールサポーター　飯田警察署 原田登志夫氏
②夏制服（長袖）の検討。デザイン確定
③テストバッテリーの実施（１年生）　昨年度までの YG 検査に代わる物として実施した。
④学校生活アンケート実施
３学年：年２回（７月・１１月）。１，２学年：年３回（７月・１１月・２月）。

アンケートの実施にあわせて、ショート面談を行った。

⑤立ち番指導、校内外巡視

定期的に立ち番指導を実施。挨拶奨励と着こなしの確認を行う。定期テスト期間等に校内外の巡視を行い、生徒観察を行う。

⑥交通指導

春と秋に登校時の交通安全指導を行った。

８．課外活動

①生徒会活動

・生徒主体の活動が行われた。７月に第６４回女子高祭が「Restart～未来をつくる光になれ～」というテーマのもと開催された。新型コロナウィルスが５類に移行したことで、コロナ前の文化祭の形に近い形で、全校生徒や来校されたお客様に楽しんでいただける文化祭を行えるよう、生徒会役員会が計画を進めた。保護者だけでなく生徒の友人も招待し、全校生徒協力の下おこなわれ、精一杯楽しんでいた。

・図書委員会では、学校司書の指導の下、毎月特集を組んで本の紹介をしたり、図書新聞を発行したり、より多くの生徒に図書館に親しんでもらえるよう取り組みが行われた。読書旬間では、積極的な取り組みにより、図書館利用者が増加した。また、図書館前の廊下を季節に合わせて飾り付けをし、より多くの生徒に図書館を利用してもらえるよう工夫を凝らした。２月に百人一首大会を実施した。

・奉仕活動委員会では、新型コロナウィルスが５類に移行したのち、校外でのボランティアの募集が微増した。そのような中で、依頼のあったボランティアに多くの生徒が参加できるよう紹介し、生徒の主体的な取り組みが見られた。

・環境整美委員会では、日々の清掃活動に意欲的に取り組めるように呼びかけを行い、各行事前にはポイントを絞って清掃を行うことで、来校されたお客様が気持ちよく過ごせるよう環境作りを行った。

・保健委員会では新型コロナウィルスやインフルエンザなどの感染症対策として、手洗いを呼びかけたりハンカチを持参しているか確認したり、校内の衛生管理を生徒自身も取り組めるよう活動を行った。

②ボランティア活動

・生徒会奉仕活動委員会がボランティア活動を紹介。多くの生徒が主体的にボランティア活動に参加している。今年度はコロナが５類になったため、ボランティアの募集も多く、前年より延べ人数で 200 名以上参加者が増加した。

・生徒は、ボランティア活動を通して、年齢の異なる人々、価値観の異なる人々、言語や文化が異なる人々など、様々な人々と関わった。多様な人たちと協働しながら活動を行い、コミュニケーション能力を高めた。また、自分の意思を表現することの難しさを体験するとともに、相手の思いを受けとめることの大切さを実感し、視野を広めている。

・能登半島地震災害義援金の募金活動を１月から２月にかけて行い、81,988 円を長野県私立中学高等学校連合会へ送金した。３年ぶりの募金活動であったが、全校生徒の意識が高く、多額のお金を募金してもらうことができた。

2023年度　ボランティア活動の記録

	ボランティア名		募集日	締切日	参加日	参加者数
1	かざこし子どもの森公園イベントボランティア	５月GWイベント	4月14日	4月20日	5/3・6・7	8
2		５月イベント	4月20日	5月16日	5/14・21・27・28	18
3		６月イベント	5月11日	5月30日	6/10・11・24・25	10
4		７月イベント	6月8日	7月18日	7/1・16・17・22・23・30	29
5		８月イベント	7月14日	8月10日	8/11・12・13・19・26・27	14
6		１０月イベント	9月14日	10月17日	10/7・9・15・28・29	12
7		１１月イベント	10月12日	11月7日	11/5・12・18	7
8		１２月イベント	11月16日	12月12日	12/2・9・10・17・23・24	16
9		１月イベント	12月7日	1月16日	1/4・８・20・27・28	12
10		2月イベント	1月11日	2月13日	2/23・24・25	9
11		３月イベント	2月8日	3月19日	3/10・23・30・31	11
12	おもしろ科学工房理科実験ボランティア	５月	4月14日	4月21日	5/7・14・21	13
13		６月	5月18日	5月22日	6月25日	4
14		７月	6月8日	6月19日	7月23日	2
15		８月	7月14日	7月20日	8月20日	2
16	サマーチャレンジボランティア		5月18日	6月5日	7/27～8/9	74
17	日本テレビ２４時間テレビ街頭募金ボランティア		7月21日	7月25日	8月27日	8
18	南原苑「おおこや祭」ボランティア		9月28日	10月2日	10月22日	2
19	みらい福祉会春休み学童保育ボランティア		2月22日	3月9日	3/15～29	7
					2023年度　延べ人数	258
					(参考)2022年度	51
					2021年度	90

③クラブ活動

・運動系７、文化系 17、同好会４。今年度は、活動時間などに制限もなく、それぞれに出来る内容を考え工夫して活動を行った。また、ほとんどの競技、団体がコロナ前と同じ形で大会等が開催された。

全国大会出場	卓球(選抜＝個人)、邦楽、写真
北信越大会出場	弓道(新人＝個人)、卓球（選抜＝個人)、水泳、新体操、空手
インターハイ県大会出場	弓道(団体)、ソフトボール、バレーボール、バドミントン、ソフトテニス、卓球(団体＝３位・ダブルス・シングルス)、水泳、新体操、空手、柔道
新人戦県大会出場	弓道(個人＝３位　団体)、卓球(団体＝３位・シングルス)、バドミントン、バレーボール、ソフトボール、ソフトテニス、水泳、空手
文化系県大会結果	邦楽(優秀賞)、写真(最優秀賞、優秀賞、優良賞、奨励賞)、書道、吹奏楽（B編成銀賞)

９．地域活動（地域との連携・公開講座・ＰＴＡ活動等）

①予定された発表はほとんど実施され、文化系クラブを中心に参加した。

邦楽	高森町下市田「桜を愛でる会」　麻績の里桜祭り　野底山森林公園さくら祭り　上郷公民館「ふれあいさわやか音楽祭」　丸山地区「観月の夕べ」　上郷下北ふれあい芸能祭 松尾地区還暦の会　座光寺地域新年顔合わせの会　座光寺地域文化祭
ギターマンドリン	飯田りんごんアップルタウンイベント　上郷公民館「ふれあいさわやか音楽祭」 丸山地区「観月の夕べ」　座光寺地域文化祭
吹奏楽	上郷公民館「ふれあいさわやか音楽祭」　座光寺地域文化祭
合唱同好会	上郷公民館「ふれあいさわやか音楽祭」　座光寺地域文化祭
チアリーディング	下黒田地区夏祭り　飯田りんごん正調踊り PR イベント　上郷下北ふれあい芸能祭 松尾地区還暦の会　阿智智里東地区文化敬老祭　とよおかまつり みなみ真宗交通安全啓発イベント　飯田市りんご並木通り冬の大作戦　南信州駅伝大会
茶道	天竜峡マルシェ
手芸	千代公民館文化祭　上郷文化祭
調理	野底山森林公園さくら祭り　野底山森林公園もみじ祭り　山本公民館国際ふれあい交流会

②家庭科の授業の中で、地域の方に講師を依頼し授業をしていただいたり、地域の保育園や幼稚園、子育て支援拠点にて実習を行う中で地域とのつながりを持った。

・飯田市社会福祉協議会による高齢者福祉講座（２時間×１年総合コース５クラス・進学コース２クラス）

・飯田市手話普及委員会・聴覚障害者による手話講座（２時間×１年総合コース５クラス）

・上郷図書館司書による絵本の読み聞かせ講座（２時間×2 年総合コース４クラス）

・上郷図書館司書による紙芝居講座（３年選択者）

・上郷図書館司書によるわらべうた講座（３年選択者）

・飯田市立座光寺保育園……2 年総合コース４クラス１回ずつ実施

・認定こども園慈光幼稚園……2 年総合コース４クラス１回ずつ

・認定こども園聖クララ幼稚園……「発達と保育」（３年選択者）

・認定こども園聖クララ幼稚園……「発達と保育」（３年選択者）夏休み預かり保育体験実習

・飯田市立上郷西保育園……「発達と保育」（３年選択者）3 回

・飯田市立上郷西保育園園長との座談会……「発達と保育」（３年選択者）1 回

・子育て支援施設わいわい広場……「発達と保育」（３年選択者）１回

・飯伊調理師会による「魚のさばき方」講座（２時間×3 年総合コース４クラス）

・飯田市健康づくり支援課による講座（２時間×１年総合コース５クラス・進学コース２クラス）

・JA みなみ信州女性部による「郷土料理」講座（２時間×3 年総合コース４クラス）

③ＰＴＡ研修旅行は 12 月２日に伊勢神宮を目的地として実施（参加者３４名）

④保護者対象の公開講座は計画と実施を見合わせた。

⑤同窓会主催行事として、母校成人式開催を改め、「２０歳をお祝いする会」を１月６日（土）に開催。８０名の卒業生が参加。

⑥１月３１日（水）～２月９日（金）　飯田市消費生活センター「賢い消費者になるために」講座（2 時間×1 年生７クラス）は昨年に引き続き実施した。

⑦幼児教育分野進学希望者が企画運営をする「こどものもり」を２月３日（土）9:30～12:00 に開催。選択授業３年生 16 名・ボランティア２年生 10 名・ボランティア１年生 17 名・吹奏楽クラブ・チアリーディングクラブ・調理クラブ・手芸クラブが携わり、総勢 60 名弱でもてなした。昨年度は４年ぶりに 20 組限定で時間短縮の上開催したが、今年度はコロナ以前の規模に戻し、約８０組募集した。当日は 55 組・約 150 人が来校。参加生徒にとって学びが実際の場で生かせる大変貴重な機会となった。

１０．教育環境の整備

①学習環境の充実

・「夜ガク」として下校時間から 20 時 30 分まで希望者による自主学習が認知され学習時間の確保につながっている。

・学力把握のために業者テストを取り入れ１・２年生全員対象に実力診断テストを４月と８月の２回実施した。

・ロイロノートの基本的な使用は職員にも浸透した。さらなるスキルアップが必要。

②設備の充実

・WiFi 環境など少しずつ整備している。校務システムに学校の帳票等合わせていく。校務の効率化を促し生徒指導の時間を増やしていく。ずっと示しているが、学園としてのスケールメリットを活かしておらず明らかに効率が悪い。こういう場面でこそ学園として動き、学園全体でも ICT 設備もふくめて連携していき教育環境の充実を図らなければ、今後国が主体で行う GIGA スクール構想の中の教育活動において他の教育機関から大きく後れを取る懸念がある。毎年報告しているが、改善の様子がうかがえず残念な結果である。

１１．その他

①学校評価アンケートを、6 月 1 日配信・9 月 28 日配信・1 月 18 日配信し、生徒や保護者から寄せられた声を全職員で共有した。その上で各部署で改善策を検討し、今後の方向性をオクレンジャーにて各家庭に伝え、理解と協力を求めた。

②学校関係者評価としてアドバイスをいただいている学校評議員会を、6 月 22 日・11 月 2 日・2 月 22 日の３回実施。2 月には各部署ごと学校目標に対する自己評価を行うことで、次年度に向けて課題を明確にした。

③年間を通じて生徒募集活動に力を入れ、中学生とその保護者に向けて本校の魅力を発信した。

・例年通り「IIJO アピール隊」を立ち上げ、中学生の前に立ち、受付・案内・学校説明等、本校生徒が主体的に取り組める機会を設けた。

・今年度も「学校紹介動画」を作成し、9 月中旬より HP 上で YouTube 配信を行った。アンケートによると、視聴している中学生・保護者が予想以上に多いことが判明。今後は SNS を駆使した募集活動の研究が必要不可欠である。次年度も継続していく予定。

・学校ホームページは適宜リニューアルや更新に努めるとともに、昨年度に引き続きは学校に来校しなくても魅力を発信できるように思案し、「開かれた学校」のアピールに心がけとくに「女子高ニュース」の最新記事のアップの頻度を向上させるなど係の努力で内容を充実させた。

④月に一度、自立できる生活実践力を身につける目的で「お弁当の日」を設け、家庭科の授業で学んだことを実生活の場で生かす機会とした。今年度は９回実施。保護者の理解や協力が十分得られて、生徒も教職員も意欲的に取り組むことができた。

⑤国際教育では、昨年度は海外からの留学生受け入れはなかったが、飯田市公民館主催の「カンボジア・スタディー・ツアー」が再開され、本校から３名の生徒が参加した。事前学習から現地での研修・事後報告会まで、他校の生徒たちと切磋琢磨することによって成長するとともに、国際的な視野を身につけることが出来た。

⑥長野県教育委員会主催「信州つばさプロジェクト」の参加者に１年生２名が選抜され、「SDGs 探究Ⅰ」で台湾に１週間（3/3～3/9）、「SDGs 探究Ⅱ」でカンボジアに１週間（3/6～3/12）にわたる研修に参加した。ホームステイや B&S、現地学生との交流をし、帰国後の 2024 年 5/20 に校内報告会を行った。

⑦校内職員研修

8 月 19 日（土）、20 日（日）桜美林大学（東京）にて実施された「未来の先生フォーラム 2023」
参加職員：堀内・濱・中島・熊谷果教諭参加

9 月 4 日（月）、5 日（火）教育課程県有協議会（伊那市）※複数職員参加

9 月 6 日（水）、7 日（木）東京農大第三高等学校視察
参加職員：田中教頭・長沼教諭・松村教諭・小林奈教諭

9 月 28 日（木）～30 日（土）真宗教育研修会（飯田女子高）
参加職員：湯沢保教諭・髙松教諭

10 月 12 日（木）～13 日（金）中部地区私学教育研修会（三重県）
参加職員：田中教頭・松村教諭

10 月 20 日（金）長野県私学教育研修会（佐久長聖）※複数職員参加

11 月 17 日（金）デジタル採点オンライン研修会　参加職員：多数

12 月 22 日（金）理科尾﨑貴久教諭　研究授業実施

＜通信制課程＞

1. 総　括

(1)生徒数について

開設 7 年目の今年度は 19 名が入学した(飯田下伊那中学女子の約 2%)。後期末の在籍生徒数は 97(含休学 3 名)名と生徒の在籍数は最多となった。卒業生は前期 1 名、後期 35 名、合計 36 名が卒業し、卒業生者数も最多の人数となった。

(2)新型コロナウィルス感染症の第 5 類移行にともなう教育活動について

2020 年度から制限された学校生活が、今年度 5 月より、第 5 類感染症に移行された。それに伴い、感染症流行以前の教育活動を見直しながら実施した。

(3)定時制通信制生徒生活体験発表大会、県大会へ初出場

2 年連続南信地区生徒生活体験発表会に出場した生徒が優秀賞受賞。県生徒生活体験発表会に出場し、審査員特別賞受賞した。本校では、初めての県大会出場者であった。

(4)中学生、保護者対象の学校説明、個別相談の件数の増加

飯田下伊那地区の中学 3 年生の女子が約 100 名減少したが、相談件数は昨年度より増加した。

2. 学籍変動

		前期					後期				
		前年度末在籍	新入生	転入生	編入生	課程変更生	前期末在籍	新入生	転入生	編入生	課程変更生
高 1 相当	週 3	0	18	0	0	0	19	0	1	0	0
	週 1	1	1	2	0	0	3	0	0	1	2
	休学	1	0	0	0	0	1		0	0	0
	小計	23					27				
高 2 相当	週 3	10		1	0	0	6		0	0	2
	週 1	13		2	0	0	21		1	0	2
	休学	3		0	0	0	1		0	0	0
	小計	29					33				
高 3 相当	週 3	10		0	0	1	9		0	0	1
	週 1	20		2	0	1	25		1	0	0
	休学	3		0	0	0	1		0	0	0
	退学	0		0	0	0	1		0	0	0
	小計	37					37(1) 退学は休学の生徒				
合計(休学)		89(7)					97(3)				
卒業		1					35				
在籍		88(7)					62(3)				

3. 前　期

(1)教務関係

活動報告

月	日	曜	内　容
4	7	金	新入生･転入生･課程変更生オリエンテーション
	11	火	前期入学式（午前)在校生オリエンテーション(午後)
	18	火	前期始業式
	24	月	転入学試験
	22	木	転入学試験
8	3	木	単位認定試験＜～8(火)まで＞
	17	木	単位認定試験追試験＜～22(火)まで＞
	23	水	単位認定試験追々試験＜～24(木)まで＞
	7	木	前期終業式
9	8	金	前期卒業式
	11	月	保護者懇談会・履修登録＜～21(木)まで＞
	20	水	後期入学試験なし(出願者がいないため)

(2)特別活動

昨年度の進路状況から進路実現に前向きに取り組む生徒が増加してきたので、3 組の進路指導の企画を 2 回に増やして実施した。また、南信地区生徒生活体験発表会では 1 名が「優秀賞」を受賞し、県生徒生活体験発表会(東御市文化会館)に初出場することが決定した。

月	日	曜	内　容	備　考
4	26	水	特別活動(ハーバリウム作り)	40 名参加
5	10	水	釈尊降誕会	
	17	水	特別活動(富士見町日帰りバス遠足)	33 名参加
6	7	水	特別活動(映画鑑賞)	29 名参加
	3	土	3 組進路ガイダンス（生徒・保護者対象)	18 組参加
7	20	木	1･2 組進路学習＜7/13(木)が大雨で休校のため変更して実施＞	22 名参加
	24	土	3 組進路学習	15 名参加
9	16	土	南信地区高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会 (飯田市鼎公民館)	2 名参加
	27	水	特別活動(ボウリング大会)	15 名参加

4. 後　期

(1)教務関係

活動報告

月	日	曜	内　容
10	3	火	転入生･編入生オリエンテーション　在学生オリエンテーション
	10	火	後期始業式
	16	月	編入学オリエンテーション
	23	月	課程変更生手続きとオリエンテーション
	15	水	課程変更生手続き
	20	月	課程変更生手続き
	21	火	課程変更生手続き
1	25	木	第１回入学試験
2	1	木	単位認定試験＜～6(火)まで＞
	8	木	単位認定試験追試験＜～14(火)まで＞
3	4	月	後期終業式
	5	火	後期卒業式
	8	水	第２回入学試験
	11	月	保護者懇談会・履修登録＜～15(金)まで＞

(2)特別活動

南信地区生徒生活体験発表会で「優秀賞」を受賞した生徒が県生徒生活体験発表会に初出場し審査員特別賞を受賞した。

月	日	曜	内　容	備　考
10	7	土	長野県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会 (東御市文化会館)	１名初出場
11	8	水	特別活動(切り紙体験)	15名参加
	24	金	報恩講	
1	18	木	1･2組進路学習	
2	26	月	2組進路ガイダンス(保護者、生徒対象)	

5. 進路状況(卒業生 36 名)

進　路		人数	進路先
進学	大学	3 名	大阪学院大学　経営学部ホスピタリティ経営学科 駒沢女子大学人間文化学類日本文化専攻 東京未来大学(通信制)
	短大	3 名	飯田短期大学 (幼児教育学科･生活科学学科生活科学専攻･生活科学学科介護福祉専攻)
	専門	8 名	飯田コアカレッジ＜(指定校推薦)IT ビジネスコース)＞ バンタンゲームアカデミー専門学校名古屋校 赤堀製菓専門学校(スイーツパン専科) 東京スクールオブビジネス (経営学科グローバルビジネス専攻国際ビジネスキャリア専攻) 岐阜保健大学医療専門学校(スポーツ健康学部　鍼･灸学科) ベルフォート美容専門学校(美容科) 代々木アニメーション学院専門学校東京校(アニメーター学科 ベルフォート美容専門学校(美容科) 名古屋スイーツ＆カフェ専門学校(パティシエ・カフェ科)
就職		8 名	・お菓子のシアワセドー ・興亜エレクトロニクス ・株式会社プリモ飯田工場 ・多摩川マイクロテップ株式会社 ・シチズン時計マニュファクチャリング株式会社飯田殿岡工場 ・株式会社丸宝計器 ・株式会社丸中中根園 ・メガネトップ
その他		14 名	アルバイト(7 名)・家居(5 名)・未定(2 名)

6. 募集活動

(1)学校説明会について

10 月 28(土)に本校主催の中学生、保護者、中学校教員対象の通信制説明会を実施した。その他に、南信教育事務所主催の「不登校生徒進学相談会」には伊那会場と飯田会場の合同説明会に参加した。(以下の表参照)本校への進学を選択肢に加え、真剣に相談する親子の姿を見ると、生徒募集の大きな可能性を感じる。通信制の説明を希望する生徒は様々な背景があり、理由も多様化している。情報化社会でも、不登校の生徒が家を出て自ら会場に足を運び、対面で話ができる重要な機会であるので今後も継続的に参加し、本校の生徒募集に繋げていきたい。

月	日	曜	内　容
10	19	木	ほんわか相談会＜上伊那地区不登校生徒進学相談会(伊那市合同庁舎)＞
	28	土	通信制説明会＜参加者計 32 名(中学生 15 名、保護者 16 名、教員 1 名)＞
	31	火	ほっこり相談会＜飯伊地区不登校生徒進学相談会(飯田市合同庁舎)＞
11	2	木	ほっこり相談会＜飯伊地区不登校生徒進学相談会(飯田市合同庁舎)＞

(2)学校説明・個別相談件数について

新入生	課程変更生	転入生	編入生
46 件	15 件	10 件	2 件

希望者には保護者と本人同伴で会場は本校で随時実施した。学校説明と(見学を含む)。個別相談で本校の教育活動を理解の上、希望者に願書を配布した。今年度の状況は上記の表の通りである。特に新入生の相談件数は中学 3 年生女子が約 100 名の生徒減少にも関わらず、個別相談数は昨年度より増加した。個別相談では、以前では全日制と通信制と選択に迷うので説明を聞きにくる場合が多かったが、最初から通信制への進学を希望する生徒と保護者が増加傾向にあると感じられた。

【伊那西高等学校】

１．教育活動（教育方針・カリキュラムの特長・今年度の変更点等）

伊那西高等学校では、今年度で３９年目を終了した。建学の精神に則り、全学年毎週１時間の「仏教」の授業を行っている。宗教教育が本校の諸活動の源流にあり、「今日、ここに命ある私」に感謝できる心を育てたいと願っている。

通常の授業については、生徒の多様なニーズに応えるべく、「演習科目」や「選択授業」を多数取り入れ、進路に直結するような授業展開を図った。また、学力的に苦しい生徒を対象とした「補習」の実施や、きめ細かな習熟度別授業など、多様な生徒に対する取り組みを深化させた。特に「学び直し」に着目し、生徒が個の目標を到達するための基礎固めをしたいと考え、実施してきている。また、今年度は、新たに１年生全員にタブレット端末を貸し出し、全校がタブレット端末を用いての授業を受講できることになった。タブレット端末は授業での利用はもちろんのこと、ICT 教育やアクティブラーニング、またはクラブ活動など、多様な面での活用ができている。電子黒板やプロジェクターを利用しての授業も増え、視覚や聴覚を刺激しながらの授業展開とすることで、生徒の授業に対する取り組みがより一層深まり、理解度も増した。

コロナ渦を受けて、ＺＯＯＭや YOUTUBU を用いての遠隔授業や行事を行うことにも積極的に取り組んだ。

オンライン授業の限界を理解しつつも、不登校傾向の生徒に対する指導や、天候の悪化などにより登校に支障が生じた場合などの、有用性を利用していかなければならないと思っている。中教審の答申あるいは法改正より、オンラインでの受講も出席と見なすという方向性が示されている、それに沿った形での、本校としてのガイドラインの外郭を整えることができた。来年度は、このガイドラインに基づいた運用を、慎重さを担保した上で運用していきたい。

ニュージーランド中期留学を実現できた。２年生１名、２年生２名の合計３名が参加し、７月～９月の３ヶ月間、充実した時間を過ごすことができた。また、短期留学も１年生３名、２年生３名の合計６名が参加し、３月４日～３月２０日の短い間ではあったが、充実した時間を過ごすことができた。生徒並びに保護者からも良好な感想を得ており、今後、発展的に継続していくことが望まれる。さらに、長期の留学制度を設立していきたい。

公立高校の授業料無償化、あるいは当該地区の公立高校の余裕を持った定員設定により、
併願入試を行った場合、昨年度同様、大きく定員を欠く結果となる恐れがある。また、中学校の先生方の「伊那西高校へ送りたい生徒が、併願で公立高校へ流れてしまうのが悲しい。」というご意見を伺い、令和元年から行ってきた併願入試を止め、専願入試一本にした。定員には届かなかったが、上伊那の状況を考えると、１４６名の入学はありがたい結果であった。ただし、通学内のほとんどの公立高校が定員割れを起こしている中でもあり、ますます生徒募集については工夫と努力が必要とされる。今後本校の良さをいかにアピールしていくか、また、そのためにはどんな生徒を育てていくかを明確に打ち出し、実質的な教育成果を上げていく必要がある。

来年度は、コロナ禍が終息した中での学校運営が可能になってくると考える。この４年間、諸行事やクラブ活動、地域との協働活動など、縮小あるいは取りやめが相次ぎ、従前のかたちが教員並びに生徒の中にイメージできないものも増えてきている。縮小あるいは、取りやめが結果的に功を奏しているものもあるだろうが、来年度については、従前のあり方に近づけて実施し、その後のあり方を考える機会としたい。そのためには、特に教員には多大な労力を課すことになるだろうが、本校の良さを維持していくためには必要な措置である。理解を得ながら進めたい。

来年度以降、将来的な展望に立ち、本校のあり方についての議論を活発化させたい。

２．クラブ活動

今年度も、各種大会やコンクール、演奏会などが一部制限されることとなったが、生徒はその中において、与えられた機会を有効に利用し、それぞれが精一杯のパフォーマンスを見せてくれ、地域からの評価

を得ることもできた。
　文化祭（西高祭）は、招待試合、献血を除き、例年の形での実施となった。生徒はコロナ禍前の文化祭を知らないため、手探り状態ではあったが、自分たちにできることに精一杯取り組み、大成功を収めることができた。また、教員の工夫と努力は並々ならないものであったことを明記しておきたい。
　また、かんてんぱぱホールをお借りして開催した「伊那西高等学校芸術フェスティバル」は、多くの来場者を得て成功裏に終わった。今年度は、例年行われていた茶華道クラブによる呈茶も行った。
　全生徒中約９割がクラブに所属しており、各クラブともその特性を生かして熱心に活動しており、その活動の中から生徒が得るものも大きい。
運動クラブ、文化クラブの活動状況は、別紙参照のこと。

３．地域活動（地域との連携・公開講座等）
　ＪＲ飯田線沢渡駅の無人化に伴い、生徒による清掃活動を開始し、１１年目となった。これは、駅舎の美化にとどまらず、地域との連携が深まり、また生徒の意識向上にもつながる活動となっている。また、駅舎内に設けられた展示スペースの利用は本校に委託されており、文化クラブの発表を中心として、年間を通じて発表の場所となっている。
　今年度は、ボランティア活動や吹奏楽の招待演奏会、お琴クラブの地元敬老会、地元公民館主催事業への協力など、活動が制限されることも多少あったが、ご依頼をいただいた催しには積極的に参加できた。

４．進学・就職状況（本年度様子・傾向・特記事項等）
　卒業生総数１４１名中、進学１０８名、就職３０名、その他３名であった。
　進学者では、４年制大学３７％、短期大学２４％(内約７０％が飯田女子短期大学)、専門学校３９％（内約４３％が医療系）であった。
　進学では、国公立大学１名、有名私大に数名、例年に比べると少し寂しい結果となった。
　就職者は、ほとんどが地元有力企業を中心として就職している。
　日頃の学校生活を通し、自己肯定感を生徒それぞれが高めることにより、自分に合った進路獲得ができると考えている。

５．中高・高大連携等
　１．飯田女子短期大学との高大連携の強化により、飯田女子短期大学へ入学後、本校で　受講した講義の単位が認められる制度を継続した。
　２．大谷大学等の高大連携授業は、オンラインと対面のよって実施された。
　３．地元中学校との交流会、授業研究会。

６．教育環境の整備
　１．全校生徒にタブレット端末を貸し出し配布し、ICT 教育の充実を図った。
　２．プロジェクター、電子黒板を増やし、ICT 教育の充実を図った。

７．その他

【幼保連携型認定こども園慈光幼稚園】

1，教育・保育活動

下記のような教育及び保育の目標の下、質の高い教育・保育に努めた。

「本園は、乳幼児期における教育及び保育が、生涯にわたる人間形成の基礎、生きる力の基礎を培うものであることを踏まえ、一人ひとりの子どもが、感謝の念を持ち、生きる喜びを感得できるよう、認定こども園法第９条に示された次に揚げる目標の達成に努める。」

(1) 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。

(2) 集団生活を通じて，喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め，自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。

(3) 身近な社会生活，生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。

(4) 日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。

(5) 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。

(6) 快適な生活環境の実現及び子どもと保育教諭その他の職員との信頼関係の構築を通じて、心身の健康の確保及び増進を図ること。

２，教育体制

学級名	年度始人数	年度末人数
もみじ組	２０	１９
き　く　組	１９	２０
う　め　組	１９	２０
なでしこ組	１９	１９
さくら組	１３	１４
も　も　組	１３	１３
ふ　じ　組	１４	１４
２歳児（いちご・すみれ）	２４	３４
１歳児（たんぽぽ）	７	１５
０歳児（つくし）	３	１１
合　　計	１５１	１７９

○3 才以上児 7 クラス、未満児 4 クラスの計 11 クラスに戻し、0,1 歳児は年齢別のクラスとした。

○未満児の途中入園が多く、年度末には定員にほぼ達した。

○常勤職員の負担軽減及び不適切保育防止等のため、年齢毎の配置基準を超えた職員数を各クラスに配置。

○前園長を幼児教育アドバイザーとして再雇用し、年長クラスを中心に教育・保育の質の向上に努めた。

＊飯田市の出生数減少に歯止めが掛からず、今後も定員割れが進む恐れがある。子育て支援の拡充、広報の充実を図りたい。

３，令和５年度の重点目標及び学校評価

(1) 重点目標

①生活や遊びの中で、様々な体験を通して「心情」「意欲」「態度」を培い、園児一人一人がのびやかに自己を発揮していく姿を大切にする。

②保護者と保育教諭等、或いは地域社会と園が互いに連携し、協働の精神をもって子ども達の教育・

保育を行うようにする。

③保育教諭の資質及び専門性の向上を図る。

(2) 学校評価結果

12 月に学校評価のための「保護者アンケート」及び「教職員自己評価」を実施し、重点目標に沿って園運営が行われたか評価を要請。2 月に学校関係者評価委員会を行い、学校関係者評価委員の多くから「昨年度挙がってきた課題に取り組み改善が見られ、良好な園の運営が成されている」と「概ねＡ」と評価され、「時代の変化と共にＰＴＡの変革が必要ではあるが、何故今まで行われてきたのか事業の意義を理解した上で、園として継続した方がよいことは、ＰＴＡの負担が軽減されるようにやり方を見直し継続した方がよい」とのご助言を頂いた。

保護者アンケートで出されたご指摘・ご意見を十分に理解しつつ、今後も一人一人の園児や保護者にとって何が大切かを見極めながら、園の進むべき方向を決定していくことを期待された。

４，地域関連事業

(1) 園行事の地域公開

５月８日に新型コロナウイルスの扱いが感染症法上５類に移行されたことから、それ以降の下記の行事を地域公開とし、近隣の高齢者にご参加いただいた。

〇たなばたまつり（７／７）　〇作品展一般公開(11／11)　〇成道会(12／8)

〇もちつき(12／22)　〇PTA 人形劇クラブ上演(1／16)

(2) 地域行事への参加

〇橋北地区『にこやか健康教室』に年長児が 3 回参加し、地域の高齢者と交流。相互に楽しく触れ合うことができた。地域の方々には、地域の園として身近に感じていただける機会となったのではないか。

〇いいだ人形劇フェスタのウェルカム人形展へ、年長が製作した人形を出展。行事を支える活動に参加することで、園児の地域文化への関心を高めることに繋がったのではないか。

(3) 地域の人材活用

活 動 行 事 名	関係先・氏名
年長『英語を遊ぼう』(年 30 回)	浅野勇先生・ジョージア先生(寺子屋)
交通安全教室(8／20)	飯田駅前交番所長
年中お友だち絵本贈呈・読み聞かせ	飯田図書館司書２名
未就園児親子登園　親子体操(11／7)	田中美智子先生
咀嚼・歯磨き指導(11／14)	飯田短期大学教授：安富和子先生
職員　表現研究会(11／16)	丸山陸雄先生(元追手町小校長)
人形劇観劇(12／19)	飯田短期大学幼児教育学科２年生
市田柿食育活性化協議会食育事業(1／17)	飯田市農政課井川さん・天竜産業原さん
救命法講習会(1／31)	飯田広域消防署員竹折隊員
年長：さつま芋の栽培(年間)	斎藤和人氏

〇コロナ禍よりも大勢の方々にご協力いただけた。今後も地域の様々な方のお力をお借りし、園児の豊かな体験を計画していきたい。

(4)地域との交流

〇下伊那農業高等学校農場見学（4／24）

昭和 41 年より毎年(コロナ禍休止)年長児が同校農場や果樹園を見学させていただき、家畜や果樹などについて知ると共に、いのちを考える大切な機会となっている。高校生が園児を迎え入れ、クイズを出すなど工夫し園児の世話や学びの援助をしてくれており、相互の学びの機会となっている。

○信菱電機株式会社の工場見学（2／7・8）

昨年度より年長児をお招きいただき、日頃見ることのできないものづくりの工程や工場の大型機械等を見学させていただいている。今年度も園児は強く刺激を受け、翌日から遊びの中で工場が再現されるなど、将来のキャリア教育に繋がると思われるような体験となっている。

(5) 施設開放

○慈光保育園への室内プール開放（7月～8月に5日間、年長児5人及び職員）

市営プールの用途廃止により申し出あり受諾。内1回は、本園の年長児と一緒にプール活動を行い、交流の機会となった。

(6) 子育て支援事業

①未就園児親子登園（さくらんぼ）

○5月より12回に亘り実施。最大9組が参加し、親子で様々な遊びを楽しく体験。

○途中入園に繋がるケース、途中参加者もあり、参加者は流動的だった。

＊未満児からの就園が増加していることからか、年々参加親子が減少傾向にある。令和6年度からは、満2歳児から参加可能とすると共に参加費を無料にすることで、より多くの参加者を募りたい。

②一時預かり事業

登録状況	0歳児	1歳児	2歳児	3歳以上児	合計
人数	12	6	4	2	24
内、新規(在園児がいない家庭)	2	1	1	2	6

利用者数	回数合計	累計時間	平均利用時間
24人中20人	50回	130時間	2.6時間

○コロナが5類になったことから保育参観などの行事の際の外部委託の託児を再開したが、託児料が値上がりしたことから、保護者の負担も考えて年度途中から「一時預かり事業」として受け入れを行うこととした。

＊「飯田市一時預かり事業利用料補助事業」により、利用料の全額又は一部が保護者に還元されることから、保護者にとって利用しやすい事業となっている。

③園庭開放

○毎週土曜日9:00～12:00に園庭を開放。利用者は少ないが在園児親子を中心に利用あり。

○園ホームページ・飯田市子育てネット・園だよりで周知。

④子育て支援だより発行等

○幼児教育コーディネータによる子育て支援通信「自実慈通信」を新たに発行し、子育てに役立つ考え方や情報を掲載。その他、保護者対象の「おしゃべり会」を6回開催。自由に話してもらう中で、子育ての悩み解消やストレス解消に繋がることを目的として行った。11人が登録。

5，進学小学校

［飯　田　市］浜井場小学校　追手町小学校　丸山小学校　上郷小学校　鼎小学校
伊賀良小学校　座光寺小学校　松尾小学校

［下伊那郡］高森南小学校　松川中央小学校

［県　　内］伊那市：伊那小学校　［県　　外］岐阜市：徹明さくら小学校

○各小学校へ園児の指導要録を送付すると共に、必要に応じて口頭で園児情報を伝達するなど連携を図った。就学判断2人（内1人は、末期腎不全のためR5年8月末に移植手術を受け無事成功。必要な支援の伝達を行った。）

６，研修・研究

(1) 園外研修

○常勤職員を中心に延べ 31（オンライン含む）の研修会に参加。研修後、研修報告により　　共通理解・研修未受講者の資質向上を図った。

○東海北陸地区私立幼稚園教育研究長野大会に１泊２日で常勤 15 人が出席。職員の資質向上のため、保護者の理解を得、できる範囲で家庭保育を要請。

(2) 園内研修

①研究 A

園内研究テーマ『「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿(10 の姿)」につながる姿を保育実践例の中からみとり、保育の振り返りをし、保育の質の向上につなげよう』

○東海北陸地区私立幼稚園教育研究長野大会の第 5 分科会に於いて、本園職員が同上のテーマで話題提供を行う。

○事後、研修報告を職員間で共有

②研究 B

○研究保育･･･なでしこ組担任（1／24）

○外部講師を招いて絵画・造形研修会の実施（11／16）

(3) 評価

「10 の姿」に繋げる教育・保育に関する視点からは、全職員で研究を進められなかった。今後の課題としていく。経験年数の浅い職員も自分の考えを出し合い、深く学べる研究会となるよう今後も工夫が必要である。

７，教育実習・保育体験・職場体験の受け入れ

(1)教育実習･･･飯田短期大学　　長野県立大学　　中部大学

(2)保育体験･･･飯田女子高等学校

(3)職場体験･･･飯田市立鼎中学校　　飯田市立飯田東中学校　　高森町立高森中学校

○できる範囲で受入を行った。教育実習の機会に就職に繋がるような働きかけを行っていく。

○飯田短期大学の教育実習Ⅱを他園でも受け入れてもらえるようになったため、ここ数年は 1 クラス 1 人ずつの受入となり、職員の負担は軽減された。(平成中期までは 1 クラス 5 人前後だった)

○教育実習時の学生の負担が大きいとの指摘がされている。実施方法について検討を行っているところである。今年度より、一日担当日の活動について、担当職員が一緒に立案するようにしてみた。

８，環境の整備　建物・設備　（※は補助金を利用）

◎玄関及び 2 階部分の蛍光灯を LED 設備に改修※

◎保育業務サービス『コドモン』導入、及び打刻用・クラス分 iPad を購入※

◎スクールバスへの置き去り防止装置設置※

◎玄関に自動施錠装置を設置

◎散歩車 1 台購入

◎園児用机　２人用６台・６人用３台※

◎AED 買替え※

○保育業務の ICT 化は、保護者・職員の協力があり順調に運用され、職員の業務軽減に役立っている。

○玄関自動施錠装置により不審者侵入防止への対応が強化された。また、保護者の協力も得られている。

9，その他、特記すべき事項

◎信州型自然保育認定(普及型)更新：10 月

飯田短期大学にて同保育に関して園長が実践報告（５／23）
◎第 30 回真宗保育学会京都大会にて「人形劇を取り入れた保育実践～ハミングパルがある、ぼくたちわたしたちの飯田の街～」について副園長が実践発表（12／1・2）
◎長野県私学振興専門員（幼児教育専門員）の園視察
久保田学先生来園し、視察・指導（12／12）
◎市田柿食育活性化協議会の食育事業に参加（１／17）
◎初の飯田市長園視察
佐藤健飯田市長と小澤子育て支援課長が来園し視察及び懇談（２／６）

Ⅲ．財務の概要

年度当初の学園全体の学生・生徒・園児数（以下「学生数」という。）は、前年比 33 名の減少となったが、収入面では学生生徒等納付金収入は、前年度比で 1,262 万の微増となった。しかし、学生数の減少は、今後も続くと予想され、納付金収入の減少が懸念されるため、募集活動の強化による学生数確保が課題となる。また、特に短期大学においては、教育の質の向上による補助金の確保および科研費等の外部資金獲得に積極的に取り組み、教育活動活性化も合わせた取り組みの必要がある。

支出面では、人件費は、前年比 5,094 万増となり、退職金を除いても前年比 4,511 万増となっている。新型コロナ感染症の影響は多少残っていたが、前年同様に教育活動が活発に行われるようになり、教育研究経費等の支出は前年と同水準で推移した。

事業活動収入は前年比 1,197 万増となったが支出はさらに前年比 5,607 万増となり、収支面で苦しい状況となった。また、人件費比率は増え、依然として支出全体に占める割合が高い状況であり、常に収支バランスが保てるような体制づくりが必要となる。

結果として学園全体の基本金組入前当年度収支差額は、△13,138 万円の支出超過であった。前年度に引き続き依然マイナス収支であり、単年度の支出超過は、一定の資産の維持及び設備更新時の資金を取崩している状況であることを示しており、今後は、策定された中長期計画に基づいた、学園経営健全化に向ける取組のなかで、収入超過を目指し、施設・設備等の維持・更新等に必要となる費用を確保できる財政状態に転換していきたい。

建学の精神に基づいた教育を軸としつつ、今の時代や学生・生徒のニーズに応えられる学園、そして、地域社会に認められる学園となるよう努力を続けていきたい。

本学園の令和３年度～令和５年度の資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表はそれぞれ別表（表Ａ～表Ｃ）のとおりである。

令和５年度　事業報告書（財務関係）

表Ａ　学校法人高松学園資金収支計算書

（単位　円）

科目 ＼ 年度		令和３年度	令和４年度	令和５年度
資金収入	学生生徒等納付金収入	1,197,310,792	1,138,174,490	1,150,797,928
	手数料収入	11,269,739	11,899,825	9,810,728
	寄付金収入	8,022,519	9,129,716	8,099,656
	補助金収入	553,900,030	535,622,936	538,918,053
	資産売却収入	0	63,930	69,300
	付随事業・収益事業収入	34,383,106	31,192,269	21,194,261
	受取利息・配当金収入	114,181	1,109,206	2,088,693
	雑収入	58,999,806	100,964,362	110,222,402
	前受金収入	326,655,960	333,333,875	313,999,300
	その他の収入	231,197,006	560,904,839	220,708,891
	資金収入調整勘定	△ 411,635,593	△ 439,645,098	△ 443,937,885
	前年度繰越支払資金	859,950,952	950,697,487	949,804,311
	合　　計	2,870,168,498	3,233,447,837	2,881,775,638
資金支出	人件費支出	1,346,691,067	1,375,685,575	1,428,966,926
	教育研究経費支出	259,237,916	261,569,055	257,086,610
	管理経費支出	83,257,047	84,199,538	99,948,018
	借入金等利息支出	2,195,127	1,978,910	1,762,000
	借入金等返済支出	46,080,000	46,080,000	46,080,000
	施設関係支出	22,620,454	21,485,402	9,167,000
	設備関係支出	12,535,541	22,780,395	14,588,014
	資産運用支出	65,000,040	421,605,268	65,053,000
	その他の支出	103,515,439	92,643,590	113,720,683
	資金支出調整勘定	△ 21,661,620	△ 44,384,207	△ 22,200,607
	次年度繰越支払資金	950,697,487	949,804,311	867,603,994
	合　　計	2,870,168,498	3,233,447,837	2,881,775,638

表Ｂ　学校法人高松学園事業活動収支計算書

（単位　円）

科目 ＼ 年度			令和３年度	令和４年度	令和５年度
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,197,310,792	1,138,174,490	1,150,797,928
		手数料	11,269,739	11,899,825	9,810,728
		寄付金	6,522,519	7,829,716	6,599,656
		経常費等補助金	552,955,030	535,122,936	538,090,253
		付随事業収入	34,383,106	31,192,269	21,194,261
		雑収入	59,077,445	100,964,362	110,222,402
		教育活動収入計	1,861,518,631	1,825,183,598	1,836,715,228
	事業活動支出の部	人件費	1,342,201,743	1,378,128,973	1,429,073,836
		教育研究経費	432,995,876	434,263,159	426,472,088
		（うち減価償却額）	173,757,960	172,494,104	169,385,478
		管理経費	96,088,736	97,185,402	112,631,377
		（うち減価償却額）	12,831,563	12,985,864	12,683,359
		教育活動支出計	1,871,286,355	1,909,577,534	1,968,177,301
		教育活動収支差額	△ 9,767,724	△ 84,393,936	△ 131,462,073
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	114,181	1,109,206	2,088,693
		教育活動外収入計	114,181	1,109,206	2,088,693
	事業活動支出の部	借入金等利息	2,195,127	1,978,910	1,762,000
		教育活動支出計	2,195,127	1,978,910	1,762,000
		教育活動収支差額	△ 2,080,946	△ 869,704	326,693
経常収支差額			△ 11,848,670	△ 85,263,640	△ 131,135,380
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	63,929	0
		その他の特別収入	2,445,000	2,800,000	2,327,800
		特別収入計	2,445,000	2,863,929	2,327,800
	事業活動支出の部	資産処分差額	14,209,775	4,885,857	2,507,210
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	14,209,775	4,885,857	2,507,210
		特別収支差額	△ 11,764,775	△ 2,021,928	△ 179,410
基本金組入前当年度収支差額			△ 23,613,445	△ 87,285,568	△ 131,314,790
基本金組入額合計			△ 38,951,425	△ 69,690,603	0
当年度収支差額			△ 62,564,870	△ 156,976,171	△ 131,314,790
前年度繰越収支差額			△ 2,869,759,487	△ 2,932,324,657	△ 3,089,301,028
基本金取崩額合計			0	0	8,922,975
翌年度繰越収支差額			△ 2,932,324,357	3,089,300,528	△ 3,211,692,843

（参考）

事業活動収入計	1,864,077,812	1,829,156,733	1,841,131,721
事業活動支出計	1,887,691,257	1,916,442,301	1,972,446,511

表Ｃ　学校法人高松学園貸借対照表

（単 位　円）

資産の部			
科目	令和３年度	令和４年度	令和５年度
固定資産	6,245,671,672	6,096,196,911	5,935,359,578
有形固定資産	5,081,805,640	4,936,505,611	4,775,615,278
土地	300,272,616	309,692,318	309,692,318
建物	4,418,521,995	4,270,141,028	4,119,372,227
構築物	52,566,778	47,305,234	42,561,850
教育研究用機器備品	47,193,018	44,631,129	38,369,016
管理用機器備品	3,512,910	3,371,075	3,018,108
図書	257,785,867	258,431,190	260,099,597
車輌	1,952,456	2,933,637	2,172,162
建設仮勘定	0	0	330,000
特定資産	1,144,447,144	1,144,447,184	1,144,447,184
校舎新築引当特定資産	367,000,000	367,000,000	367,000,000
施設設備拡充引当特定資産	611,447,144	611,447,184	611,447,184
退職給与引当特定資産	101,000,000	101,000,000	101,000,000
運用資金引当特定資産	65,000,000	65,000,000	65,000,000
その他の固定資産	19,418,888	15,244,116	15,297,116
借地権	7,200,000	7,200,000	7,200,000
電話加入権	695,278	695,278	695,278
有価証券	1,001,000	1,001,000	1,001,000
差入れ保証金	8,662,610	5,267,838	53,200,838
長期貸付金	1,860,000	1,080,000	1,080,000
流動資産	1,018,241,000	1,064,777,602	979,885,594
現金及び預金	950,697,487	949,804,311	867,603,994
未収入金	64,382,183	112,989,138	110,604,010
短期貸付金	780,000	540,000	360,000
前払金	2,208,940	1,270,563	1,144,000
預け金	172,390	173,590	173,590
資産の部合計	7,263,912,672	7,160,974,513	6,915,245,172

負債の部			
科目	令和３年度	令和４年度	令和５年度
固定負債	642,154,444	598,242,842	555,469,752
長期借入金	361,120,000	315,040,000	272,160,000
退職給与引当金	280,759,444	283,202,842	283,309,752
長期未払金	275,000	0	0
流動負債	463,371,047	491,630,558	419,989,097
短期借入金	46,080,000	46,080,000	42,880,000
未払金	18,211,315	41,724,307	20,930,004
前受金	326,655,960	333,333,875	313,999,300
預り金	72,423,772	70,492,376	42,179,735
負債の部合計	1,105,525,491	1,089,873,400	975,458,849

純資産の部			
科目	令和３年度	令和４年度	令和５年度
基本金	9,090,711,538	9,160,402,141	9,151,479,166
第１号基本金	8,937,711,538	9,007,402,141	8,998,479,166
第４号基本金	153,000,000	153,000,000	153,000,000
繰越収支差額	△ 2,932,324,357	△ 3,089,301,028	△ 3,211,692,843
翌年度繰越収支差額	△ 2,932,324,357	△ 3,089,301,028	△ 3,211,692,843
純資産の部合計	6,158,387,181	6,071,101,113	5,939,786,323
負債及び純資産の部合計	7,263,912,672	7,160,974,513	6,915,245,172